

教育学研究科教員業績一覧

(2009年4月1日～2010年3月31日)

基礎教育学コース

今井康雄(教授)

<著書>

小笠原道雄編『進化する子ども学』福村出版, 2009年4月。(「第9章 子どもとメディア」(136-148頁) 担当)

今井康雄編『教育思想史』有斐閣, 2009年6月(「はじめに—教育思想史の考え方」(1-11頁), 「第8講 古典の人間形成論—シラーからニーチェまで」(143-163頁), 「第15講 新教育以後の教育思想」(282-304頁) 担当)。

矢野智司/今井康雄/秋田喜代美/佐藤学/広田照幸編『変貌する教育学』世織書房, 2009年8月(「教育学の変貌」に関する覚え書—教育学はいかに変貌を生き延びるか」(3-20頁), 「山名論文へのコメント: 「生活改革」と「新教育」」(207-209頁) 担当)。

佐伯胖監修/渡部信一編『「学び」の認知科学事典』大修館書店, 2010年2月。(「第2章 「学び」に関する哲学的考察の系譜」(39-61頁) 担当)

Cornelie Dietrich/Hans-Rüdiger Müller (Hrsg.): *Die Aufgabe der Erinnerung in der Pädagogik*, Bad Heilbrunn: Klinkhardt 2010年3月。(“Die Medien und die „Repräsentation“. Unterwegs zu einer pädagogischen Semantik der Medien”(S. 299-312) 担当)

<論文>

今井康雄「私にとっての教育思想史(学会)」『近代教育フォーラム』第18号, 2009年9月, 103-110頁。

今井康雄/田中智志/田村謙典/北原崇志/広田照幸「教育における「力」の概念」『近代教育フォーラム』第18号, 2009年9月, 189-202頁。

今井康雄「言語はなぜ教育の問題になるのか」『教育哲学研究』100号記念特別号, 2009年11月, 221-242頁。

<招待講演・口頭発表>

Imai, Yasuo: Why Does Language Matter to Education?: Comparing Nietzschean and Wittgensteinian An-

swers, Symposium: Rethinking Language and Education in the Age of Globalization, 東京大学教育学部, 2009年12月10日。

今井康雄「私の考える教育学」, 三田教育学会(慶應義塾大学), 2010年3月5日。

Imai, Yasuo: Transformation der japanischer Pädagogik seit 30 Jahren, Vortrag gehalten an der Universität Leipzig, 2010年3月18日。

<その他>

今井康雄/西村拓生「研究討議に関する総括的報告」『教育哲学研究』第99号, 2009年5月, 22-27頁。

今井康雄「「力」って何?」『教育研究』(筑波大学附属小学校・初等教育研究会編), 2009年6月号, 10頁。

今井康雄(訳): ヴルフ「儀礼の再発見—ミメシス・遂行性・儀礼的知—ベルリンにおける儀礼研究」矢野智司/今井康雄/秋田喜代美/佐藤学/広田照幸編『変貌する教育学』世織書房, 2009年8月, 215-248頁。

今井康雄「思想はエビデンスに勝るか?—『教育思想史』を刊行して」『書齋の窓』第589号(2009年11月号), 70-74頁。

Imai, Yasuo: Editorial: Reaching a Turning Point after 30 Years of Reform, in: *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No. 4, 2009 (2009年12月), pp. 3-4.

今井康雄「教育の中心にメディアを導入する」『視聴覚教育』通巻749号(2010年3月), 2-3頁。

今井康雄(書評): 鈴木幹雄/長谷川哲哉編『パウハウスと戦後ドイツ芸術大学改革』, 『ドイツ研究』第44号, 2010年3月, 207-211頁。

金森 修(教授)

<単著>

『〈生政治〉の哲学』単著, ミネルヴァ書房, 2010年3月30日, pp. 1-339+i-v, 1-20

<参考論文・エッセイなど>

1) 「思い出の中公新書」, 『中公新書の森』, 中央公

論新社, 2009年5月25日, pp. 52-53.

- 2) 「〈ヒステリーの失踪〉という謎」, 『フロイト全集』第6巻, 岩波書店, 月報12, 2009年8月28日, pp. 6-9.
- 3) 「日常世界と経験科学」, 『寺田寅彦全集』第3巻, 岩波書店, 月報3, 2009年11月10日, pp. 1-5.
- 4) 「〈座談会〉ベルクソンの過去から未来へ」金森修・合田正人・檜垣立哉, 『思想』第1028号, 岩波書店, 2009年12月号, 2009年12月5日, pp. 11-43.
- 5) 「死生学の可能性」, シンポジウム発表・討論, 『死生学の可能性』, 東京大学大学院人文社会系研究科, グローバルCOEプログラム, シンポジウム報告集, 2010年3月15日, pp. 14-16, 31-122.
- 6) 「心に残る藤原書店の本」, 『心に残る藤原書店の本』創業二〇周年記念アンケート, 2010年3月22日, pp. 20-21.

〈書評〉

- 1) 「夢のあるSFの宇宙を案内」, 『日本経済新聞』, 2009年4月26日
- 2) 「2009年上半期読書アンケート」, 『図書新聞』第2927号, 2009年7月25日
- 3) 「2009年上半期三冊」, 『週刊読書人』第2798号, 2009年7月31日
- 4) 「科学ジャーナリズムとは何か?」, 『週刊読書人』第2809号, 2009年10月16日
- 5) 「藤川信夫著『教育における優生思想の展開—優生思想の〈批判〉とは、何を意味するのか』, 『近代教育フォーラム』第18号, 2009年9月12日, pp. 257-260.
- 6) 「2009年下半期読書アンケート」, 『図書新聞』第2947号, 2009年12月26日
- 7) 「2009年読書アンケート」, 『みすず』no. 579, 2010年2月1日, pp. 2-3.

〈学会等発表〉

- 1) 「死の扉と、生の出口」, シンポジウム『死生学の可能性』, 東京大学文学部, 2009年6月14日
- 2) 「生権力と死の思想」, 「安楽死の思想史」, 『学術俯瞰講義』, 2009年6月29日, 7月6日, 東京大学教養学部
- 3) 「病と死の傍らの賢治」, 日台国際研究会議『東アジアの死生学へ』, 2009年10月30日, 台湾国立政治大学
- 4) 「伝染病対策と、その文化」, 『吉岡やよいさん

追悼シンポジウム』, 東京大学, 駒場ファカルティ・ハウス, 2009年12月19日

川本隆史(教授)

〈単行本〉

川本隆史(大村敦志・土井真一氏ら14名との共著), 『法教育のめざすもの—その実践に向けて』, 商事法務, 2009年, 総ページ数323.

〈論文〉

川本隆史(単著), 「女性, 家族, そして性愛の探究へ—宮迫千鶴からの眺望」, 『岩波講座 哲学』第12巻=性/愛の哲学, 岩波書店, 2009年 pp. 1-16.

〈その他の業績〉

川本隆史(講演), 「子ども・ケア・共生—社会倫理学の螺旋運動」, 第50回日本児童青年精神医学会総会特別講演, 2009年10月1日(国立京都国際会館)

川本隆史(インタビュー), 「いのちとはなにか—川本隆史さんに聞く」(上/下), 『Fonte』通算282~283号, 2010年1月15日/2月1日, 全国不登校新聞社.

小玉重夫(教授)

〈著書〉

小玉重夫(共著)『教育学をつかむ』(共著者木村元, 船橋一男), 有斐閣, 2009年4月, 総頁数288

〈雑誌論文〉

小玉重夫(単著)「『政治教育』の課題」『教育』vol. 59, NO. 6 国土社, 2009年6月, pp. 4-10

Shigeo Kodama “Citizenship Education and Politics in the U.S.A and Japan: Preface to the interviews with Carrie Bakken, Walter Enloe, and Harry Boyte”, in *Bulletin Report of Grant-in-Aid for Scientific Research (B): No. 18830176 (Principal Investigator: Teruyuki Hirota)*, Tokyo, 2009. 5. pp. 226-227

小玉重夫(単著)「教育改革における遂行性と遂行中断性—新しい教育政治学の条件—」日本教育学会『教育学研究』第76巻第4号, 2009年12月, pp. 14-25

小玉重夫(単著)「成年年齢引き下げの論点と学校教育への影響」『教職研修』2010年1月号, 教育開発研究所, 2009. 12. pp. 80-85

〈口頭発表〉

小玉重夫「子どもの育ちを支える教師とカリキュラ

- ム：市民性教育の視点から」シンポジウム「学びと育ちを保障する学校・教師」東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化センター主催，東京大学福武ホール・ラーニングシアター，2009年7月5日
- 小玉重夫「シティズンシップ教育の政治性：学校づくりとカリキュラム改革の視点から」日本教育方法学会第45回大会（香川大学）課題研究Ⅱ「シティズンシップ教育の教育方法学的課題」2009年9月26日
- 小玉重夫「教育における労働の脱規範化へ向けて—アレントによるマルクスの読みかえに着目して—」2009年10月 教育哲学会第52回大会 課題研究「労働と教育」
- 小玉重夫「市民教育からみた法教育」法と教育学会設立準備総会・シンポジウム基調講演，2009年12月6日（日）明治大学リパティタワー1011教室

田中智志（教授）

〈著書〉

- 田中智志（単著），『教育思想のフーコー教育を支える関係性』，勁草書房，平成21（2009）年6月10日刊行，総頁数259+xxi.
- 田中智志（共著），今井康雄編（執筆者は他に加藤守通，菱刈晃夫，北詰裕子，岩下誠，森田伸子，鳥光美緒子，山名淳，辻本雅史，山本正身），『教育思想史』，有斐閣，平成21（2009）年6月30日刊行，総頁数336.
- 田中智志（単著），『社会性概念の構築—アメリカ進歩主義教育の概念史』，東信堂，平成21（2009）年11月5日刊行，総頁数408.
- 田中智志（共著），江川政成，高橋勝，望月重信，葉養正明編『最新教育キーワード』（第13版），時事通信社，平成21（2009）年12月25日刊行，総頁数317.

〈雑誌論文〉

- 田中智志（共著），他に今井康雄，広田照幸，北原崇志，田村謙典，「教育における『力』の概念」『近代教育フォーラム』（教育思想史学会編），第18号（pp. 189-201），平成21（2009）年9月10日刊行.
- 田中智志（単著），「文脈構成としての探究—デュレイとカリキュラム」，『山梨学院大学附属小学校紀要』（山梨学院大学附属小学校編），第3号（pp. 15-27）平成21（2009）年10月29日刊行.

- 田中智志（単著），「希望の肯定性—教育哲学の論じられなかったテーマ」，『教育哲学研究』（教育哲学会編・教育哲学会刊），第100号記念特別号（pp. 361-376），平成21（2009）年11月10日刊行.
- 田中智志（単著），「倫理とは何か—関係性が支える倫理感覚」，『理学療法ジャーナル』（医学書院刊），第44巻第1号（pp. 69-74），平成22（2010）年1月15日刊行.
- 田中智志（単著），「没頭すること—契機と含意」，『教育研究』（初等教育研究会編・不昧堂出版），第65巻第2号（pp. 14-17），平成22（2010）年2月1日刊行.
- 田中智志（単著），「完全性と力—重層する力の教育概念史へ」『社会科学年報』（山梨学院大学大学院社会科学部研究科），第30号（pp. 3-21），平成22（2010）年2月15日刊行.
- 田中智志（単著），「自己物語の始まり」『幼児の教育』（日本幼稚園協会編），第109巻第3号，pp. 4-7，平成22（2010）年3月1日刊行.

谷本宗生（助教）

〈雑誌論文〉

- 谷本宗生（単著），「進文学社 [進文学舎] について」，『1880年代教育史研究会ニューズレター』第25号，2009.4，pp. 9-10.
- 谷本宗生（単著），「外山正一の逸話について」，『1880年代教育史研究会ニューズレター』第27号，2009.11，pp. 11-12.
- 谷本宗生（単著），「明治の上京遊学と苦学・挫折に関して」，『東京大学史史料室ニュース』第43号，2009.11，pp. 4-5.
- 谷本宗生（単著），「戦前期の大学総長の人物像について 濱尾新・外山正一・長與又郎の逸話」，『東京大学史史料室ニュース』第44号，2010.3，pp. 4-5.

〈その他の業績〉

- 谷本宗生（取材対応），「東大の歴史，今どこに 1万点以上を保管」，『東京大学新聞』第2481号，2009.9，p. 1.
- 谷本宗生（文献紹介），「正木直彦『回顧七十年』（1937年）を読んで 上京遊学した青年子弟の動向を探る」，『1880年代教育史研究会ニューズレター』第26号，2009.7，pp. 9-10.
- 谷本宗生（文献紹介），「小山健三と第五高等学校 医学部設置のかかわり 『小山健三伝』（1930年）

を読んで], 『1880年代教育史研究会ニューズレター』第28号, 2010.1, pp. 10-11.

谷本宗生 (史料紹介), 「私立東京英語学校生・上田英吉の『遊学日記』(その1)», 『1880年代教育史研究年報』第1号, 2009.10, pp. 111-128.

谷本宗生 (資料目録・共編), 『学内広報』表紙写真目録 (784~1210号), 『東京大学史紀要』第28号, 2010.3, pp. 85-98.

比較教育社会学コース

白石 さ や (教授)

〈著書・論文〉

白石さや (単著), 「エスニック・アイデンティティ再考: アチェ語の教科書を読む」, 『アジア教育』第3巻, アジア教育学会, 2009年11月, 1-31ページ.

〈その他の報告書〉

国際交流基金文化研究委員会 (座長 平野健一郎), 国際交流基金文化研究委員会報告書『21世紀, 新しい文化交流を』

〈学会発表・特別講義等〉

異文化間教育学会第30回大会「異文化間教育の研究 方法としてのフィールドワーク: 可能性と限界」ディスカッサント, 於学芸大学小金井キャンパス, 2009年5月31日.

“Barrier-Free Studies and Education,” “Pacific Rim Popular Culture Studies,” APRU (Association of Pacific Rim Universities) Deans of Education Meeting, Presentations for Research Programs and Developments that might offer possibilities for International Collaborations, The University of Auckland, New Zealand, 8 December 2009.

「問題提起: 国民国家とグローバル・ネットワーク」, 早稲田大学アジア研究機構「アジア地域のネットワーク解析研究拠点構築 (OAS-RUNASIA)」社会文化領域第2回研究会『アジアにおける社会・文化の伝播』, 於早稲田大学19号館, 2010年2月20日.

早稲田大学アジア研究機構「アジア地域のネットワーク解析研究拠点構築 (OAS-RUNASIA)」社会文化領域第2回研究会『アジアにおける社会・文化の伝播』「中東における日本のアニメのプレゼンス」貫井万里氏報告討論者, 2010年2月20日. 財団法人日本国際問題研究所海外招聘研究員 (JIIA Visiting Research Fellow) トニー・エフェンディ

氏 (Mr. Tonny Dian Effendi, Lecturer, Department of International Relations, University of Muhammadiyah Malang) 最終研究発表会 “Japan’s Public Diplomacy,” コメンテーター, 2010年3月2日.

「特別講義: マンガ・アニメのグローバル化の構造を考える」『グローバリゼーションの進展と日中教育学研究の課題』東京大学大学院教育学研究科=華東師範大学教育科学学院2009年度学術交流上海フォーラム, 於華東師範大学, 上海, 2010年3月8日.

〈社会的活動〉

外務省「国際漫画賞実行委員会」委員

日本国際文化学会常任理事

独立行政法人国際交流基金文化交流研究委員会専門委員

東アジア共同体評議会 (CEAC: The Council on East Asian Community) 有識者議員

日本国際フォーラム有識者議員

京都大学東南アジア研究所学外研究協力者

恒 吉 僚 子 (教授)

〈著書〉

Ryoko Tsuneyoshi, Kaori Okano, and Sarane Boocock, eds. 2010. *Minorities and Education in Multicultural Japan: An Interactive Perspective*, New York: Routledge.

〈論文〉

Ryoko Tsuneyoshi. 2010. “Cultural Diversification and Japanese Education: Social Constructions of the New Diversity,” in *The International Encyclopedia of Education*, vol. 1, 3rd Edition, edited by Penelope Peterson, Eva Baker, and Barry McGraw, Oxford: Elsevier, pp. 787-792.

恒吉僚子. 2010. 「アメリカの子育てに学ぶ」『教育と医学』pp. 4-11.

〈事典類〉

「グローバリゼーション」「グローバル教育」(担当項目)『現代教育事典』あすろ出版, 2009.

「外国人教育」「多文化・多言語教育」(担当項目)『教育キーワード137』高橋勝他編, 時事通信社, 改訂版, 2009.

〈発表〉

「東アジアの学校改革—“学びの共同体”を中心に」東京大学教育学研究科東アジア学校改革プロジェクト他主催, 指定討論者, 2009年7月.

「新生アメリカの教育改革」リンダ・ダーリング・ハモンズ特別招待講演，日本教育学会68回，指定討論者，2009年8月。

本田由紀（教授）

〈著書〉

本田由紀（単著），『教育の職業的意義』，筑摩書房，2009，総頁数224。

荻谷剛彦・本田由紀（編著），『大卒就職の社会学』，東京大学出版会，2010，総頁数229。

〈論文〉

本田由紀，「教育・労働・家族をめぐる問題」，芹沢一也・荻上チキ（編），『日本を変える「知」』，光文社，2009，pp.149-215。

本田由紀，「専門高校生の職業への移行」，小杉礼子（編著），『若者の働き方』，ミネルヴァ書房，2009，pp.46-73。

本田由紀，「教育歴と労働条件・仕事特性・社会意識」，『「若者の教育とキャリア形成に関する調査」2008年第2回調査結果報告書』，pp.64-76。

本田由紀，「専門高校におけるインプット・スループット・アウトプットの連関構造」，『都立専門高校の生徒の学習と進路に関する調査』，Benesse教育研究開発センター研究所報 vol. 57，2010，pp.22-33。

本田由紀，「若年労働市場における二重の排除」，森田洋司他（編），『新たな排除にどう立ち向かうか』，学文社，pp.83-101。

〈その他の業績〉

本田由紀，「「就活」という名の濁流に沈む若者たち」，文藝春秋（編），『日本の論点2010』，文藝春秋，pp.388-391。

本田由紀・堤未果・宮台真司（鼎談），「格差社会をサバイバルする」，神保哲生・宮台真司（編），『格差社会という不幸』，春秋社，2009，pp.61-153。

小森陽一・木附千晶・藤田英典・本田由紀（パネルディスカッション），「教育を問う，社会を問う」，『教育を子どもたちのために』岩波ブックレット No. 764，2009，pp.31-52。

本田由紀，「見殺しにしつつ自らの首を絞める「正」と「非正」のパラドキシカルな関係」，『朝日ジャーナル創刊50年怒りの復活』，2009，pp.118-120。

本田由紀，「書評 山内乾史 [編著]『教育から職業

へのトランジション—若者の就労と進路職業選択の教育社会学—』，『教育社会学研究』第85集，2009，pp.141-143。

橋本 鉦 市（教授）

〈著書〉

『世界からみた日本の教育』日本図書センター，2009年7月 全426頁（L・マクドナルド編，菊池栄治・山田浩之らとの監訳）

『専門職養成の日本的構造』玉川大学出版部，2009年9月，全258頁（編著）

『航行をはじめた専門職大学院』東信堂，2010年3月，全181頁（吉田文との共著）

〈雑誌論文〉

「国会議事録における『専門職』概念の分布と構造」『東北大学大学院教育学研究科年報』第57第2号，49-63頁，2009年6月（丸山和昭，山崎尚也との共著）。

「近代日本における教育界の構造分析—イシュー・アクター・ネットワーク—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第49巻，85-104頁，2010年3月（丸山和昭との共著）。

〈その他の業績〉

「国立大学法人化のインパクト」シンポジウム『旧制高等学校記念館第14回夏期教育セミナー』（招待シンポジスト）松本市旧制高校記念館，2009年8月30日

橋本鉦市「近代日本における教育界—イシュー・アクター・ネットワーク—」『教育社会学会第61回大会発表』2009年9月13日，早稲田大学。

小 山 治（特任助教）

〈著書〉

東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse教育研究開発センター（編著），『都立専門高校の生徒の学習と進路に関する調査』，小山治，「専門高校における職業的レリバンス意識と進路不安—教育内容の習得度とその学校外活用機会の多寡に着目して—」，ベネッセコーポレーション，2010，pp.112-120。

荻谷剛彦・本田由紀（編著），『大卒就職の社会学—データからみる変化』，小山治，「なぜ企業の採用基準は不明確になるのか—大卒事務系総合職の面接に着目して」，東京大学出版会，2010，pp.199-222。

〈雑誌論文〉

小山治 (単著) 「認知的に埋め込まれた能力評価—大卒事務系総合職の面接に着目して—」, 『経済社会学会年報』 XXXI, 経済社会学会, 2009, pp. 156-164.

小山治 (共著), 「ミュージアムリテラシー育成のための基礎的研究—博物館利用者の属性・意識と博物館活用効果とのクロス表分析の結果—」 (田代英俊・中村隆との共著), 『日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要』第14号, 日本ミュージアム・マネジメント学会, 2010, pp. 77-87.

〈その他の業績〉

小山治 (学会発表), 「大学生からみた企業の能力評価過程—大卒事務系総合職採用に着目して—」, 日本教育社会学会第61回大会 (早稲田大学), 2009.

小山治 (講演), 「社会調査概論—実務に必要な社会調査の基礎—」, 財団法人日本科学技術振興財団「科学館における効果的な環境・エネルギー教育に関する調査研究」, 財団法人新技術振興渡辺記念会 科学技術調査研究助成 (財団法人日本科学技術振興財団), 2009.

小山治 (口頭発表), 「2009年度『科学の祭典』全国大会の評価の試み—興味喚起度, 知識獲得度, 満足度, STL ギャップ, EL ギャップに着目して—」, 「青少年のための科学の祭典」全国ネットワーク事業 第2回全体・評価委員会 (財団法人日本科学技術振興財団), 2010.

小山治 (報告書), 「『青少年のための科学の祭典』に参加することの効果—科学技術リテラシー自信度とエネルギー・放射線リテラシー自信度に着目して—」, 財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館企画広報室『平成20年度科学技術館科学技術理解増進活動基礎調査 報告書—青少年のための科学の祭典—科学技術館来館者—サイエンス友の会—』, 財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館企画広報室, 2010, pp. 101-108.

小山治 (報告書), 「科学技術館の意義—興味喚起度, 知識獲得度, 満足度に着目して—」, 財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館企画広報室『平成20年度科学技術館科学技術理解増進活動基礎調査 報告書—青少年のための科学の祭典—科学技術館来館者—サイエンス友の会—』, 財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館企画広報室, 2010, pp. 163-170.

〈社会活動〉

財団法人日本科学技術振興財団「『青少年のための科学の祭典』全国ネットワーク事業評価委員会」委員 (2009年9月~2012年3月)

生涯学習基盤経営コース

影浦 映 (教授)

〈著書〉

影浦映 (共著). 「かたちから言葉を見る」 (新井紀子『数学は言葉』東京図書, 2009, 第5章, p. 155-172.

〈雑誌論文 (査読付)〉

海野敏, 影浦映, 戸田慎一. 「コミュニケーションメディアの情報伝達性能の包括的比較」『日本図書館情報学会誌』第55巻第3号, 2009, p. 119-140.

Kyo Kageura. “Computing the potential lexical productivity of head elements in nominal compounds using the textual corpus,” *Progress in Informatics*, 5, 2009, p. 49-56.

〈国際会議論文 (査読有)〉

Takeshi Abekawa and Kyo Kageura. “QRpotato: A system that exhaustively collects bilingual technical term pairs from the web,” 3rd International Universal Communication Symposium, 3-4 December 2009, Tokyo, Japan, p. 115-119.

Masao Utiyama, Takeshi Abekawa, Eiichiro Sumita and Kyo Kageura. “Minna no Hon'yaku: A website for hosting, archiving, and promoting translations,” *Translating and the Computer* 21, 19-20 November 2009, London, England.

Mohammad Daoud, Christian Boitet, Kyo Kageura, Asanobu Kitamoto, Daoud Daoud and Mathieu Mangeot, “Constructing multilingual preterminological graphs using various online-community resources,” 8th International Symposium on Natural Language Processing, 20-21 October 2009, Bangkok, Thailand, p. 116-121.

Masao Utiyama, Takeshi Abekawa, Eiichiro Sumita and Kyo Kageura, “Hosting volunteer translators,” *MT Summit XII* 2009. 27-29 August 2009, Ottawa, Canada.

Emmanuel Prochasson, Emmanuel Morin and Kyo Kageura, “Anchor points for bilingual lexicon extraction from small comparable corpora,” *MT Summit XII* 2009. 27-29 August 2009, Ottawa, Canada.

〈招待講演・チュートリアル〉

影浦峽. 「『現代思想』と言葉—脳・認知から遠く離れて」言語処理学会第11回年次大会. チュートリアル講演, 2010年3月8日.

影浦峽. 「電子ブックと出版: 読者から見えるもの」筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター公開シンポジウム2010「現代出版研究の視座: 情報メディアの電子化と出版流通の変容」, 2010年3月5日.

内山将夫, 影浦峽, 久保順子. 「翻訳者を支援するサイト: みんなの翻訳」AAMT/Japio 特許翻訳研究会シンポジウム—多言語特許流通の時代と機械翻訳の役割—, 2009年11月27日.

〈雑誌記事〉

影浦峽. 「ニューヨーク・タイムズ紙が報ずる「読むことの将来」」『カレントアウェアネス』No. 301, 2009, p. 5-6.

内山将夫, 阿辺川武, 隅田英一郎, 影浦峽. 「みんなの翻訳—ボランティア翻訳者の支援と翻訳の共有のためのWebサイト」『AAMT Journal』45号, 2009, p. 11-14.

影浦峽. 「ティモール・ロロサエ1999年, 回想メモ」『ARENA』第6号, 2009, p. 323-326.

〈事典項目〉

影浦峽. 「用語抽出」言語処理学会編『言語処理学事典』東京: 共立出版, 2009, p. 350-353.

影浦峽. 「ターミノロジー」言語処理学会編『言語処理学事典』東京: 共立出版, 2009, p. 94-95.

影浦峽. 「語彙量の推定」計量国語学会編『計量国語学事典』東京: 朝倉書店, 2009, p. 118-122.

影浦峽. 「使用率の分布」計量国語学会編『計量国語学事典』東京: 朝倉書店, 2009, p. 112-115.

〈学会発表(査読無)〉

影浦峽, 阿辺川武, 内山将夫, 隅田英一郎. 「統合翻訳ホスティング・サイトを用いた協調作業による下訳・修正訳データの収集」言語処理学会第16回年次大会論文集, 2010年3月.

影浦峽, 阿辺川武, 内山将夫, 隅田英一郎. 「オンライン協調翻訳環境におけるユーザ用語管理メカニズム」言語処理学会第16回年次大会論文集, 2010年3月.

内山将夫, 阿辺川武, 影浦峽, 隅田英一郎. 「みんなの翻訳第2報」言語処理学会第16回年次大会論文集, 2010年3月.

阿辺川武, 植田禎子, 影浦峽. 「英日翻訳における

いわゆる-ed型, -ing型動詞の分析」言語処理学会第16回年次大会論文集, 2010年3月.

村山遼, 影浦峽. 「英日翻訳における下訳と修正訳の語彙的/文体的特徴の分析」言語処理学会第16回年次大会論文集, 2010年3月.

Masao Utiyama, Takeshi Abekawa, Eiichiro Sumita and Kyo Kageura. "A one-stop online translation aid site for volunteer translators," Open Translation Tools 2009, 22-24 June 2009, Amsterdam, Holland.

〈メディア紹介〉

「言葉は「あわだち」がおもしろい (Academic Animal 04 知的探求者たち 言語情報研究者 影浦峽)」Wedge. 2010年3月号. p. 72-73.

「らいふプラス」日本経済新聞. 2009年9月3日夕刊. (みんなの翻訳)

「オピニオンリーダーの持論を知る (学術・研究分野の現場) 東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室 影浦峽教授」PC-Webzine. No. 208, June 2009. p. 84. (みんなの翻訳)

「NICTと東京大学による翻訳者支援・翻訳情報発信サイト」情報通信ジャーナル. 第27巻第5号, p. 45. (みんなの翻訳)

"An era of translation by everybody, for everybody (written by Chris Salzberg)," The Japan Times. April 22, 2009. (みんなの翻訳)

「翻訳者支援サイト NICTと東大が一般公開」科学新聞. 2009年4月17日. (みんなの翻訳)

「NICTと東大 多言語情報流通を促進 翻訳者支援情報発信サイト「みんなの翻訳」を一般公開」電波タイムズ. 2009年4月10日. (みんなの翻訳)

「英文翻訳支援ソフト 所要時間3割減 東大・情通機構 ネット向け」日経産業新聞. 2009年4月7日. (みんなの翻訳)

牧野 篤 (教授)

〈著書・単著〉

『シニア世代の学びと社会 —大学がしかける知の循環—』, 勁草書房, 2009年9月

〈報告書・編集〉

『生活を感じ, 実践に学ぶ —東京大学教育学部社会教育学演習II 2009年度「阿智村調査実習」報告—』, 東京大学教育学部社会教育学研究室, 2010年3月

〈論文・日本語・単著〉

「働くこと」の生涯学習へ』, 東京大学大学院教育

学研究科生涯学習基盤経営コース『生涯学習基盤経営研究』第34号, pp. 123-137, 2010年3月

「近代化」から「語らい」へ—理性的な感情の動員から身体的な相互性の創出へ—, 日本教育学会特別課題研究委員会「教育研究における東アジアの歴史認識」研究会『教育研究における東アジアの歴史認識』, pp. 161-174, 2009年8月

〈論文・中国語・単著〉

「日本高齢者価値観変化と高齢教育発展の探討」, 台北県政府教育局『台北県 2009 中日高齢教育国際学術研討会・研討会手冊』, pp. 1-24, 2009年12月, 台北市政府教育局・台北市図書館『台北市政府教育局 2009 日本高齢教育專題講座』, pp. 1-23, 2009年12月

「日本社会結構の変化と教育改革の方向—從終身学習の角度看学校教育改革の方向—」, 中華人民共和国国家教育部人文社会科学重点研究基地華東師範大学基礎教育改革與發展研究所『“学校变革與教師發展: 歴史, 理論與方法” 国際学術研討会會議論文集』, pp. 25-58, 2009年11月

「日本の雇用不安と成人教育・生涯学習の課題」, 国立中正大学『2009 成人及高齢教育国際学術研討会—職場変遷與成人学習會議論文集』, pp. 74-117, 2009年10月

〈書評・紀行文・随想など・日本語〉

「国際シンポジウム: 東アジアの社会変動と教育改革—中国・韓国・シンガポール—」, 日本教育学会『教育学研究』第77巻第1号, pp. 78-83, 2010年3月

「発刊の辞—新たな社会のベンチマークとして」, 東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース『生涯学習基盤経営研究』第34号, pp. 1-2, 2010年3月

「行為・制度・基盤—自明性の裂け目と私の存在をめぐって」, 東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース『生涯学習基盤経営研究』第34号, pp. 19-20, 2010年3月

「べき」論への違和感—「はじめに」に代えて—」, 東京大学教育学部社会教育学研究室『生活を感じ, 実践に学ぶ/東京大学教育学部社会教育学演習II 2009年度「阿智村調査実習」報告書』, pp. i-iv, 2010年3月

「おじさんの妄想」, やさい安心くらぶ『やさい安心ひろば』2010年早春号, 2010年3月

「中国の若者たちと歴史認識」, アジア教育学会『ア

ジア教育』第3巻, pp. 97-106, 2009年11月

「宮崎聖子著『植民地期台湾における青年団と地域の変容』」, 教育史学会『日本の教育史学』第52集, pp. 192-195, 2009年7月

「一緒に食べるとおいしい」, やさい安心くらぶ『やさい安心ひろば』6-7月号, vol. 2, p. 1, 2009年7月

「食と体とジグソーパズル」, やさい安心くらぶ『やさい安心ひろば』創刊号, p. 1, 2009年4月

〈書評・紀行文・随想など・中国語〉

「知識人的幸福と大学法人化」, 田愛麗『現代大学法人制度研究—日本国立大学法人化改革の実践と啓示』(序二), 上海教育出版社, pp. 4-11, 2009年9月

〈学会・シンポジウム等・国内〉

教育史学会特別シンポジウム「教育における競争の比較と歴史」, 指定討論者, 東北大学東京事務所会議室, 2009年7月11日

〈学会・シンポジウム等・国外〉

中華人民共和国国家教育部人文社会科学重点研究基地華東師範大学基礎教育改革與發展研究所「“学校变革與教師發展: 歴史, 理論與方法” 国際学術研討会」, 発表「日本社会結構の変化と教育改革の方向—從終身学習の角度看学校教育改革の方向—」, 華東師範大学, 2009年11月22日~23日

台北市政府教育局・台北市立図書館「台北市政府教育局 2009 日本高齢教育專題講座」, 基調講演

「日本高齢者価値観変化と高齢教育発展の探討」, 台北市立図書館総館国際会議庁, 2009年12月21日

台北県政府教育局「台北県 2009 中日高齢教育国際学術研討会」, 発表「日本高齢者価値観変化と高齢教育発展の探討」, 台北県政府507会議室, 2009年12月19日

国立中正大学・教育部社会教育司・行政院労働工作委員会・行政院国家科学委員会「2009 成人及高齢教育国際学術研討会—職場変遷與成人学習」, 基調報告「日本の雇用不安と成人教育・生涯学習の課題」, 国立中正大学, 2009年10月16日~17日

大学経営・政策コース

山本 清 (教授)

〈著書〉

“Public Sector Management Reform in Japan” in S. Goldfinch and J. L. Wallis (eds.). International Handbook of Public Management Reform. pp. 336-350.

単著 2009.9. Edward Elgar

〈英文論文〉

- Competitive Accounting Models in the Public Sector: An Analysis Based on a Governance Approach for Accounting Reform in Japan and Anglo-Saxon Countries 単著 2009.5.12th CIGAR Conference (Modena)
- Performance Oriented Budgeting in Public Universities: the case of national universities in Japan 単著 2009.9. EGPA Conference (Malta)

〈和文論文〉

- 「地方行革の課題」単著 2009.6.『会計検査資料』第525号 pp.32-34.
- 「法人化と財務・経営の課題」単著 2009.6.『IDE 現代の高等教育』No.511, pp.40-44.
- 「国立大学法人の経営財務にの現態に関する全国調査」中間報告書 共著 2009.6. 国立大学財務・経営センター
- 「ファンディング・システムが教育研究活動に与える影響」単著 2009.8.『大学財務経営研究』第6号, pp.3-13.
- 「公共料金としての国立大学の授業料」単著 2009.8.『国立大学法人における授業料と基盤的教育研究経費に関する研究』（国立大学財務・経営センター）pp.1-11.
- 「会計検査院の検査制度」単著 2009.9.『公監査を公認会計士・監査法人が実施する場合に必要な制度要因の研究調査』報告書（日本監査研究学会）第11章, pp.133-145.
- 「地方分権改革」単著 2009.10. 日本地方自治研究学会編『地方自治の最前線』清文社, 第1章, pp.3-14.
- 「評価と証拠」単著 2009.10.『評価クォーター』行政管理研究センター No.11, p.1.
- 「「事業仕分け」ここがおかしい」単著 2009.12.『ニューリーダー』第22巻第2号, p.9, インタビュー記事
- 「高等教育財政への期待」単著 2010.1.『大学マネジメント』Vo.5, No.10, pp.13-17.
- 「自治体病院の経営方式と経営効率」単著 2010.3.『「まちなか集積医療」の提言』NIRA 研究報告書
- 「大学の設置形態とガバナンスの比較からみた国立大学法人制度」単著 2010.3.『大学の設置形態に関する調査研究報告書』第8章, 「文部科学省先導的・大学改革推進委託事業」

〈学会発表等〉

- 「我が国の評価制度の特性」2009.5.9. 日本行政学会研究会（広島大学）
- 「国立大学の法人化—学部長調査」2009.5.24. 日本高等教育学会第12回大会（長崎大学）
- 「日本の評価制度の特性」2009.11.8. 政府業績管理サミット（上海財経大学）

〈講演会〉

- 「国立大学法人評価—現状と課題—」2009.6.13. シンポジウム「アジア・太平洋地域の高等教育の市場化政策：国立大学法人制度の現在」（東北大学分室会議場）
- 「実態調査からみた国立大学法人の課題」2009.9.18. 大学マネジメントセミナー（企画・戦略編）国立大学協会
- 「公会計改革を自治体経営に生かす」2009.10.2. 公会計改革会議2009（日本経済新聞社）
- 「政策立案の執行管理における評価」2010.2.19. 平成21年度管理職員プロフェッショナルセミナー（総務省主催）
- 「法人化後の財務管理構造の分析」2010.3.25.『平成21年度版 国立大学の財務』刊行セミナー

両角 亜希子（講師）

〈著書〉

- 両角亜希子（単著）『私立大学の経営と拡大・再編—1980年代後半以降の動態』東信堂, 2010年2月, 総頁数424.

〈雑誌論文〉

- 両角亜希子（単著）「事例報告：関西学院大学」大学評価・学位授与機構『平成20年度 大学外組織評価研究会 最終報告書』2009年4月 56-77頁
- 両角亜希子（単著）「予算管理と結びつけて中期計画を実質化（事例①：福岡工業大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2009年5月 156号 12-15頁
- 両角亜希子（単著）「長期計画で新リーダー体制を確立（事例②：昭和女子大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2009年5月 156号 16-19頁
- 両角亜希子（単著）「学生獲得に向けた地方小規模大学の挑戦（事例③：長岡大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2009年5月 156号 20-23頁
- 両角亜希子（単著）「学部長の意識・施策から見た

- 教育力向上のための課題」進研アド『Between』2009年夏号, No. 230 32頁
- 両角亜希子(単著)「ネットワーク化の拠点校(事例②:山形大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2009年7月 157号 14-17頁
- 両角亜希子(単著)「全学的一斉授業公開制度を軸にFD活動(事例③:流通科学大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2009年7月 157号 18-21頁
- 両角亜希子(共著)「知識社会における大学教育と職業」(齋藤芳子氏, 小林信一氏との共著)塚原修一編集『リーディングス 日本の教育と社会 ⑫ 高等教育』日本図書センター(2009年9月), 188-210頁(※『大学論集』第34集, 2004年の論文の再掲)
- 両角亜希子(単著)「学習行動と大学の個性」『IDE 現代の高等教育』No. 515(特集:「学習させる」大学), 2009年11月号, 26-31頁
- 両角亜希子(単著)「「開かれた大学」を目指した改革で志願度No.1へ(事例:明治大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2009年11月 159号 38-41頁
- 両角亜希子(単著)「共学化を契機に新しい理念で改革を推進(事例:愛知淑徳大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2009年11月 159号 46-50頁
- 両角亜希子(単著)「計画に基づく経営の確立を—「私立大学の財務運営に関する実態調査」の結果から」『教育学術新聞 アルカディア学報』2009年11月11日, 385号
- 両角亜希子(単著)「小さい大学だから発揮できるリーダーシップで改革を推進(事例①:北海道文教大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2010年1月 160号 10-13頁
- 両角亜希子(単著)「中期総合計画と面倒見のよさで高い志願倍率を持続(事例②:中村学園大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2010年1月 160号 14-17頁
- 両角亜希子(単著)「大学生の学習行動の大学間比較—授業の効果に着目して—」東京大学大学院教育学研究科『東京大学大学院教育学研究科紀要』第49巻, 191-206頁 2010年3月
- 査におけるメゾ分析が示すもの」日本高等教育学会第12回大会(2009年5月23日, 長崎大学)
- 両角亜希子(学会発表)「大学生の学習行動, 生活行動」日本高等教育学会第12回大会課題研究Ⅱ(大学教育の改善に向けて:学生調査結果から)(2009年5月24日, 長崎大学)
- 両角亜希子(依頼講演)「大学の教育効果—大学によってどう異なるか」放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター FD セミナー「日本の大学生の学習行動から見えたもの」(2009年7月9日, 放送大学)
- 両角亜希子(依頼講演)「教育の質保証と学習成果—大学生の学習行動から考える—」大学コンソーシアムひょうご神戸 第4回 FD・SD セミナー(2009年9月25日, 神戸女子大学ポートアイランドキャンパス)
- 両角亜希子(依頼講演)「私立大学の財務運営-実態調査の報告」日本私立大学協会大学経理部課長相当者研修会【総合研修】Ⅱ 日本私立大学協会附置私学高等教育研究所「私大マネジメント改革」プロジェクト研究報告「私立大学の財務運営に関する実態調査結果」について(2009年10月8日, 神戸ポートピアホテル)
- 両角亜希子(依頼講演)「収入減少期における人件費のあり方—「私立大学の財務運営に関する実態調査」からの検証」日本私立大学協会大学経理部課長相当者研修会【設定課題別研修】3班:収入増加方策・支出の効率化関係課題(2009年10月9日, 神戸ポートピアホテル)
- 両角亜希子(依頼講演)「高等教育投資に関する日米比較」サイエンス・スタディーズ研究会第4回(2009年11月6日, 東京大学駒場14号館4階407号室)
- 両角亜希子(依頼講演)「私立大学のガバナンス—アメリカとの比較から」2009年度大学みらい塾(大学コンソーシアム京都)(2009年11月14日, 龍谷大学 大宮キャンパス)
- 両角亜希子(依頼講演)「高等教育ファンディングシステムの日米比較」第20回 GIST セミナー(2010年1月21日, 政策研究大学院大学 4階会議室4A)
- 両角亜希子(依頼講演)「職業人と大学教育調査—結果の概要」中央教育審議会大学分科会大学規模・大学経営部会第6回(2010年2月18日, 金融庁13階 共用第一特別会議室)

〈口頭発表〉

金子元久, 両角亜希子, 谷村英洋(学会発表)「学習行動の大学間ベンチマーキング—大規模学生調

両角亜希子（依頼講演）「私立大学における戦略的経営—現状と課題—」私学高等教育研究所第43回公開研究会（2010年2月19日，私学会館5階 大雪の間）

教育心理学コース

秋田喜代美（教授）

〈著書〉

（単著・編著）

秋田喜代美（単著）『保育の心もち』ひかりのくに 2009 pp. 127

秋田喜代美・野口隆子（共編著）『保育内容 言葉』光生館 2009 pp. 165.

無藤隆・神長美津子・秋田喜代美（共編著）『よくわかる幼稚園教育要領』ひかりのくに 2009 pp. 159.

秋田喜代美・増田時枝（共著）『絵本で子育て：子どもの育ちを見つめる心理学』岩崎書店 2009 pp. 250.

秋田喜代美（編著）『教師の言葉とコミュニケーション 教室の言葉から授業の質を高めるために』教育開発研究所 2010 pp. 207.

秋田喜代美・藤江康彦（共著）『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 2010 pp. 265.

秋田喜代美・芦田宏・鈴木正敏・門田理世・野口隆子・箕輪潤子・淀川裕美・小田豊『子どもの経験から振り返る保育プロセス：明日のより良い保育のために』（DVD付）幼児教育映像制作委員会 2010 pp. 43.

（分担執筆）

秋田喜代美「教師教育から教師の学習過程研究への転回—マイクロ教育実践研究への変貌」矢野智志他（編）『変貌する教育学』世織書房 2009 pp. 45-76.

秋田喜代美「幼稚園教育要領改訂のポイント 領域言葉」無藤隆・柴崎正行（編）『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』別冊発達29 ミネルバ書房 2009 pp. 65-70.

秋田喜代美「教師像，知識と記憶，動機づけ，読書，保育と教育」二宮克夫・子安増生『キーワードコレクション教育心理学』新曜社 2009

秋田喜代美「専門性の向上を目指す園の自己評価」（財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（編）『幼稚園における学校評価—こどもの育ちをみんなで支える園をめざして』フレーベル館 2009

pp. 10-12.

秋田喜代美「質の時代における学力形成」「エビログ 学力問題への問い」東京大学学校教育高度化センター（編）『基礎学力を問う 21世紀日本の教育への展望』東京大学出版会 2009 pp. 193-234, pp. 235-246.

秋田喜代美「聞く力」「幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続①②」無藤隆（編）『新幼稚園教育要領 ポイントと活動 幼稚園』東洋館出版社 2009 p. 137, p. 157, p. 163.

秋田喜代美「言語力育成への教育方法学の課題」日本教育方法学会編『教育方法38言語の力を育てる教育方法』図書文化 2009 pp. 14-26.

秋田喜代美「『保育』研究と『授業』研究—観る・記録する・物語る研究—」日本教育方法学会（編）『日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態』学文社 2009 p. 177-188.

秋田喜代美「保育者にもとめられるもの」pp. 94-106

「協同的体験と小学校への接続」pp. 150-152. 濱

名浩（編著）『保育内容 人間関係』みらい 2009
秋田喜代美「全員が，楽しむ・わかる・できる国語授業のために」授業のユニバーサルデザイン研究会（編著）『授業のユニバーサルデザイン 全員がわかるできる国語授業づくり』東洋館 2010 p. 74-79.

（翻訳書）

Sawyer, R. K.（編）森敏昭・秋田喜代美（監訳）『学習科学ハンドブック』培風館 2009 pp. 490.

Darling-Hammond, L. & Snowden, B. J.（著）秋田喜代美・藤田慶子（共訳）『よい教師をすべての教室へ：専門職としての教師に必須の知識とその習得』新曜社 2009 pp. 127.

論文

（学術論文）

秋田喜代美「子どもの読書活動推進の新たな転回と課題」読書科学52（3），97-101. 2009

菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子「乳児の絵本場面における母子の実物への指差しをめぐる研究」読書科学52（3），148-160. 2009

秋田喜代美「記録したくなる園内研修のために」保育学研究，47（2），146-149. 2010

Nakatsubo, F. Akita, K. Enosawa, Y. & Nagata, Y. 'Japanese early childhood teachers' views of changes in young children's lifestyles and relationships with parents'. *Asia-Pacific Journal of Research in Early*

Childhood Education, 4(1), 87-106. 2010

砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・安見克夫「保育者の語りにもみる実践知—「片付け場面」の映像に対する語りの内容分析—」保育学研究 第47巻第2号 70-81. 2010

箕輪潤子・秋田喜代美・安見克夫・増田時枝・中坪史典・砂上史子「幼稚園における片づけの実態と目標の関連性の検討」乳幼児教育学研究, 18, 41-50. 2009

菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子「乳児期の絵本場面における母子の共同注意の指さしをめぐる発達の变化：積み木場面との比較による縦断研究」発達心理学研究, 21 (1), 46-57. 2010

(一般論文)

秋田喜代美「独創性と創造性—創造性を導く授業の要件」算数授業研究, 64, 4-7. 2009

秋田喜代美「聴く・語る・伝え合う関係をはぐくむ」幼稚園じほう, 37 (4), 12-18. 2009

秋田喜代美・定行まり子・園田巖「鼎談 今、問われている保育の環境・空間」保育の友, 57 (11), 10-25. 2009

秋田喜代美「保育・教育の質向上の長期的グランドデザインを明確に」雑誌科学79 (11), 1256. 2010

秋田喜代美「幼稚園・保育所と小学校との円滑な接続の意義」初等教育資料, 856, 6-11. 2010

<学会等発表>

(招待講演)

Akita, K. 'Early Childhood Mathematics Teaching in Japan: Participation in Mathematical Activities in Everyday-life Settings' 17. 4. 2009 Chicago: Erikson Institute of Education.

Akita, K. 'Improving the Quality of Early Childhood Education in Japan: National Educational Policy Reform and the Development of Process-Oriented Self-Evaluation Instrument' 19. 10. 2009 Shanghai International Child Development and Education forum.

(国際学会発表)

Akita, K. & Oda, Y. 'Collaboration and Transformation of Activity Systems of Kindergarten-Elementary school: How teachers talk about boundary-crossing between two cultural systems' paper presented at AERA San Diego. 2009. 4. 1429. 013.

(国内学会発表)

秋田喜代美「伝え合う言葉の育ちと保育」日本保育学会準備委員会企画シンポジウム「子どもとこと

ば—今、子どもの側にたち言葉の育ちを考える」話題提供日本保育学会第62回大会発表論文集 38-39. 2009. 5

秋田喜代美・野口隆子・淀川裕美・箕輪潤子・門田理世・芦田宏・鈴木正敏・小田豊「幼稚園から小学校への移行に関する縦断的分析 (1) 園文化から学校文化への子どもの移行経験, (2) 移行経験による保護者の認識の変化」日本教育心理学会第51回総会発表論文集 p. 443-444. 2009. 9

安見克夫・増田時枝・秋田喜代美・箕輪潤子・中坪史典・砂上史子「片付け場面における保育者の実践知を規定する要因：保育者研修ビデオ視聴後の語りの分析」日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 265, 2009. 9

箕輪潤子・秋田喜代美・安見克夫・増田時枝・中坪史典・砂上史子「片付け尺度の開発と保育者の片付けに対する認識の検討：「片付けの実態」と「片付けの目標に関する意識」について」日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 266, 2009. 9

松崎由美子・松本沙代子・佐藤夕貴・高木恭子・中澤潤・秋田喜代美「園長・保育者と保護者の保育内容・保育方法に関する認識の分析 (2) 6年間の経年比較」日本保育学会第62回大会発表論文集, 97, 2009. 5

秋田喜代美「授業解釈から学びあう組織が生まれるために」「授業を意味づける (2) 授業者・実践者・研究者の視座からの解釈と語り」企画ならびに話題提供日本教育心理学会第51回総会発表論文集 S46-47. 2009. 9

秋田喜代美「新しい「学び」のあり方を考える—学級内外のフィールドから生成・成立する学び—」指定討論 日本教育心理学会第51回総会発表論文集 S78-79. 2009. 9

中坪史典・秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・砂上史子・箕輪潤子「片付け場面のビデオ視聴に対する保育者の語りの分析—保育者の感情の認識と表出を中心に」日本乳幼児教育学会第19回大会研究発表論文集 p. 44-45. 2009. 11

安見克夫・増田時枝・秋田喜代美「幼児の生活リズムを形成する要因に関する研究—園での歩数、運動能力と生活習慣の関連性」日本乳幼児教育学会第19回大会研究発表論文集 p. 46-47. 2009. 11

市川 伸一 (教授)**<著書>**

『基礎学力を問う』東京大学出版会, 2009 (東京大学 学校教育高度化センター編, 「第6章 認知心理学からの提言 学力概念と指導・評価」を担当執筆)

『新判 教えて考えさせる授業 小学校』図書文化, 2009年 (市川伸一・鏑木良夫編)

<学術雑誌論文>

市川伸一・南風原朝和・杉澤武俊・瀬尾美紀子・清河幸子・犬塚美輪・村山航・植阪友理・小林寛子・篠ヶ谷圭太「数学の学力・学習力診断テストCOMPASSの開発」『認知科学』, 2009, Vol. 16, No. 3, pp. 333-347.

市川伸一・下條信輔「3 囚人問題の展開と意義をふり返って」『認知心理学研究』, 2010, Vol. 7, No. 2, pp. 137-145. (日本認知心理学会第4回独創賞記念論文)

<一般雑誌論文, その他>

『『教えて考えさせる授業』の視点』『授業研究21』(明治図書), 2010, No. 640, pp. 7-8.

『DVD版『教えて考えさせる授業』小学校』ジャパソライム, 2010年 (市川伸一監修, 貝塚市教育委員会協力. 貝塚市での講演および国語・算数・社会・理科の授業を収録, 講演・解説および国語授業を担当)

岡田 猛 (教授)**<著書>**

縣拓充・岡田猛 (2010) 創造的教養の育成. 海保博之・北村英哉・竹村和久 (編) 感情と思考の科学事典. 356-357, 朝倉書店

岡田猛・山内保典 (2010) 科学の創造. 海保博之・北村英哉・竹村和久 (編) 感情と思考の科学事典. 358-359, 朝倉書店

山内保典・岡田猛 (2010) 科学コラボレーション. 海保博之・北村英哉・竹村和久 (編) 感情と思考の科学事典. 360-361, 朝倉書店

横地早和子・岡田猛 (2010) 美術の創造. 海保博之・北村英哉・竹村和久 (編) 感情と思考の科学事典. 362-363, 朝倉書店

<論文>

縣拓充・岡田猛 (2010) 「創作の過程や方法を知る」美術展示及びワークショップの効果 美術教育学, 31, 13-27.

石橋健太郎・岡田猛 (2010) 他者作品の模写による描画創造の促進. 認知科学, 17, 196-223.

Okada, T., Yokochi, S., Ishibashi, K., & Ueda, K. (2009) Analogical modification in the creation of contemporary art. *Cognitive Systems Research*, 10, 189-203.

縣拓充・岡田猛 (2009). 教養教育における「創造活動に関する知」を提供する授業の提案: 「創作プロセスに触れること」の教育的効果 教育心理学研究, 57 (4), 503-517.

岡田猛・縣拓充 (2009). 創造的表現を促進するための美術館展示の開発とその効果の検討 マツダ財団研究報告書 (青少年健全育成関係), 21, 61-68.

縣拓充・岡田猛 (2009) 美術創作へのイメージや態度を変える展示方法の提案とその効果の検討 美術教育学, 30, 1-14.

<招待講演等>

“Putting creativity on display: An art exhibition from the standpoint of cognitive science.” Special Colloquium talk. Learning Research and Development Center, University of Pittsburgh, USA., 2010, 3, 16, Invited speaker.

“Creative process of Japanese contemporary artists” Special colloquium talk. Department of Fine Arts, University of Nevada, Las Vegas, USA., 2010, 3, 10, Invited speaker.

第110回東京大学公開講座「特異」講演者 2009年4月18日

佐々木 正人 (教授)**<著書>**

ホンマタカシ編著『たのしい写真』50-70ページ (対話) 平凡社 2009年

深澤直人・藤井保編著『THE OUTLINE—見えていない輪郭』(モノは知覚している) アシエット婦人画報社 2009年

<学会発表>

伊藤万利子・三嶋博之・佐々木正人 けん玉操作における巧みさと知覚 日本心理学会第73回大会 (2009年8月立命館大学)

<その他>

書評「この人・この3冊 田中小実昌」毎日新聞朝刊 2009年12月13日

<受賞>

第五回独創賞 (「空書研究」日本認知心理学会)

第一回学術映像コンペティション入選（「動くあかちゃん事典」京都大学総合博物館）

南風原 朝 和（教授）

〈著書〉

『心理統計学ワークブック—理解の確認と深化のために』（平井洋子・杉澤武俊と共著），有斐閣，2009年9月

〈論文〉

「数学の学力・学習診断力テストCOMPASSの開発」（市川伸一らと共著），『認知科学』，第16巻，第3号，333-347頁，2009年9月

「フォーカシングから見た内観療法」（伊藤研一らと共著），『内観研究』，第15巻，第1号，49-58頁，2009年9月

〈学会発表等〉

ワークショップ「やはり，検定力分析はすべきです！」（指定討論），日本心理学会第73回大会（立命館大学），2009年8月

「個を重視する量的研究の可能性」（シンポジウム「カウンセリング研究におけるエビデンスを求めて」における話題提供），日本カウンセリング学会公開シンポジウム（立正大学），2009年11月

〈その他〉

「学びの質の保障と検証—東大附属における『学びの共同体』の振り返りを中心に」，東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化センター：シンポジウム「学びと育ちを保障する学校・教師」報告書，15-23頁，2010年3月

遠 藤 利 彦（准教授）

〈著書〉

遠藤利彦（分担・単著）（2009）．喜怒哀楽を感じる心：感情心理学入門．繁杵算男・丹野 義彦（編），心理学の謎を解く：初めての心理学講義（pp. 97-128）．医学出版．

遠藤利彦（分担・単著）（2009）．アスペルガー症候群におけるアタッチメント．榊原洋一（編），別冊「発達」30：アスペルガー症候群の子どもの発達理解と発達援助（pp. 82-97）．ミネルヴァ書房．

遠藤利彦（分担・単著）（2009）．情動は人間関係の発達にどうかかわるのか：オーガナイザーとしての情動，そして情動的知性．須田治（編），情動的な人間関係の問題への対応（pp. 3-33）．金子書房．

遠藤利彦（分担・単著）（2009）．自己と感情：その進化論・文化論．有光興記・菊池章夫（編），自己意識の感情の心理学（pp. 2-36）．北大路書房．

遠藤利彦（分担・単著）（2010）．心理臨床の基礎としての発達心理学．坂本真士・伊藤絵美・杉山崇（編），臨床に活かす基礎心理学（pp. 127-154）．東京大学出版会．

遠藤利彦（分担・単著）（2010）．心の理論．乾敏郎・川口潤・吉川左紀子（編），よくわかる認知科学（pp. 12-13）．ミネルヴァ書房．

〈雑誌・紀要論文等〉

遠藤利彦（2009）．鯨岡理論と愛着理論の間．『てんむすフォーラム』（てんむすフィールド研究会），3，59-81．

遠藤利彦・井桁容子（2009）．乳児保育とアタッチメント（対談記録）．赤ちゃん学カフェ，2，40-51．

遠藤利彦（2009）．フロイトが描いた夢は夢のまた夢なのか？ 公共的良識人，213，5．

遠藤利彦（2010）．人間らしさの進化と発達—感情と社会性を中心に—．共愛学園前橋国際大学論集，10，29-48．

〈学会発表〉

遠藤利彦（話題提供）感応する心・共鳴する脳：発達心理学的的一試論・私論．第90回公共哲学京都フォーラム「脳と人間（自己と他者）と社会（世界）」（京都リーガ ロイヤルホテル），2009年6月21日．

遠藤利彦（指定討論）シンポジウム：メタ認知的過程—読み取る心を読み取る．日本認知心理学会第5回大会（立教大学），2009年7月19日．

遠藤利彦（指定討論）ワークショップ：成人アタッチメント研究の現状の課題と今後の可能性．日本心理学会第73回大会（立命館大学）．2009年8月28日．

遠藤利彦（指定討論）ワークショップ：乳幼児における社会的認知の発達—4年間に亘る縦断研究から—．日本心理学会第73回大会（立命館大学）．2009年8月28日．

遠藤利彦（指定討論）シンポジウム：教育における情動．日本教育心理学会第51回総会（静岡大学）．2009年9月22日．

遠藤利彦（招待講演）観る心・よりそう心：三つの「みる」（観・察・省）のトライアングルからもう

- 一つの「みる」(看)へ、日本音楽療法学会第8回関東支部大会(東邦音楽大学)。2009年12月6日。
- 遠藤利彦(指定討論)シンポジウム:ふたご「の」研究,ふたご「による」研究—異なる研究アプローチの理論的・方法論的統合。日本発達心理学会第21回大会(神戸国際会議場)。2010年3月26日。
- 遠藤利彦(指定討論)ラウンドテーブル・ディスカッション:母親の特性と子どもへのかかわり方との関連を考える。日本発達心理学会第21回大会(神戸国際会議場)。2010年3月28日。
- 遠藤利彦(話題提供)日本臨床発達心理士会・日本臨床発達心理士会関西支部会共催シンポジウム:「臨床発達心理学」の構築に向けて(2)—「個への支援,関係への支援」をめぐって—。日本発達心理学会第21回大会(神戸国際会議場)。2010年3月28日。
- 本島優子・遠藤利彦(ポスター発表)家族の情緒的雰囲気と子どものアタッチメント安定性—縦断的検討—。日本発達心理学会第21回大会(神戸国際会議場)。2010年3月27日。
- 〈講演〉
- 遠藤利彦 発達心理学の立場から子育て・保育の基本について考える。川崎市保育ボランティア講演会(川崎市麻生市民会館)。2009年7月17日。
- 遠藤利彦 発達心理学の立場から子育てについて考える。武蔵野市子育て講演会(武蔵野市立0123はらっぱ)。2009年7月27日。
- 遠藤利彦 乳幼児期に大切にしたい子どもの心の育ちと保育者の役割。こどもみらい館協同機構講演会(京都市こどもみらい館)。2009年8月5日。
- 遠藤利彦 社会情動発達から子どもへの支援を考える。臨床発達心理士会・茨城支部・公開講演会(茨城大学)。2009年10月24日。
- 遠藤利彦 感応する心:発達心理学の一試論・私論。臨床発達心理士全国大会・応用研修会講演(日本女子大学)。2009年11月1日。
- 遠藤利彦 人間らしさの進化と発達—感情と社会性を中心に— 2009年度共愛学園前橋国際大学公開講座「人間らしさの探究:心理・教育・福祉の視点から」(共愛学園前橋国際大学)。2009年11月14日。
- 遠藤利彦 赤ちゃんと暮らす:子育ての基本について考える。徳島保育研修会講演(徳島県立総合教

育センター)。2009年11月21日。

遠藤利彦 乳幼児期の発達:特にアタッチメントに焦点化して。平成21年度治療機関・施設専門研修会講演(子どもの虹情報研修センター)。2009年11月24日。

針生悦子(准教授)

〈論文〉

Maguire, M. J., Hirsh-Pasek, K., Golinkoff, R. M., Imai, M., Haryu, E., Vanegas, S., Okada, H., Pulverman, R., & Sanchez-Davis, B. A developmental shift from similar to language specific strategies in verb acquisition: A comparison of English, Spanish, and Japanese. *Cognition*, 114(3), 2010, pp. 299–319.

姜露・針生悦子「自動詞・他動詞構文の理解の発達:中国語を母語とする子どもの場合」東京大学大学院教育学研究科紀要第49巻, 2009, pp. 207–215.

〈学会発表〉

Haryu, E., Imai, M., & Okada, H. Object similarity fosters novel verb generalization in young children. *Paper presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*. 2009年4月2日。

Haryu, E. When and how do Japanese children acquire symbolic values of Japanese onomatopoeia?: The influence of Japanese writing system. *Paper presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*. 2009年4月3日。

姜露・針生悦子「中国語を母語とする子どもにおける項構造の理解」日本心理学会第73回大会発表論文集, p. 1061. 2009年8月26日。

大竹裕香・針生悦子「音象徴が擬音語の意味処理に及ぼす影響:有声音・無声音の対比に焦点を当てて」日本心理学会第73回大会発表論文集, p. 954. 2009年8月28日。

針生悦子・梶川祥世「子どもはどのようにして“名詞”を理解するようになるのか:助詞を手がかりとした品詞カテゴリーの形成」日本認知科学会第26回大会。2009年9月10日。

姜露・針生悦子「中国語を母語とする子どもにおける項の意味役割の理解」日本認知科学会第26回大会。2009年9月11日。

Haryu, E. & Kajikawa, S. Japanese infants utilize grammatical particles as cues to categorize a novel word

into a noun class. *Paper presented at the XVIIth Biennial International Conference on Infant Studies*. 2010年3月13日.

Miyazaki, M., Okada, H., Haryu, E., & Imai, M. Toddlers live in rich sound-symbolic worlds: A picture book reading study. *Paper presented at the XVIIth Biennial International Conference on Infant Studies*. 2010年3月13日.

梶川祥世・針生悦子「母親による擬音語朗読音声の音響特徴」日本発達心理学会第21回大会発表論文集, p. 526. 2010年3月28日.

〈著書〉

針生悦子「ことばとコミュニケーションの発達」繁多進(監) 向田久美子・石井正子(編)「新乳幼児発達心理学」(pp. 89-104), 福村出版, 2010.

臨床心理学コース

下山晴彦(教授)

〈著書／編著〉

下山晴彦(単著) 2010『臨床心理学をまなぶ1 これからの臨床心理学』東京大学出版会 pp. 279

下山晴彦・村瀬嘉代子(編) 2010「今、心理職に求められていること」誠信書房 pp. 255

金生由起子・下山晴彦(編) 2009「精神医学を知る—メンタルヘルス専門職のために」東京大学出版会 pp. 261.

下山晴彦(編) 2009「よくわかる臨床心理学:改定新版」ミネルヴァ書房 pp. 301.

〈講座の企画・編集〉

下山晴彦 2009～「臨床心理学を学ぶ」全7巻

下山晴彦 2008～「臨床心理学研究法」全8巻 新曜社

下山晴彦 2008～「臨床心理学研究の最前線」(年1冊刊行) ミネルヴァ書房

〈専門誌論文〉

下山晴彦 2010 認知療法の治療作用—その今日的特性— 精神療法36(1), 35-42

下山晴彦 2010 医療領域における臨床心理研修プログラムの研修マニュアル 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 47-55

中坪太久郎・石丸徑一郎・梅垣佑介・野中舞子・菊池なつみ・下山晴彦 2010 精神障害と臨床心理学—心理学的援助の可能性— 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 80-87

平林恵美・海老根理絵・鴛渕るわ・堤亜美・松丸未

来・園田雅代・石橋太加志・下山晴彦 2010「中学・高校生のための“ライフスキルボックス”プログラムの開発」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 72-79

野田香織・吉田沙蘭・慶野遥香・中坪太久郎・平林恵美・藤岡勲・川崎舞子・津田容子・野中舞子・下山晴彦 2010「子どもの強迫性障害のための認知行動療法プログラム(2)」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 64-71.

吉田沙蘭・野田香織・梅垣佑介・下山晴彦 2010「子どもの強迫性障害のための認知行動療法プログラム(1)」東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 56-63.

高岡昂太・藤岡勲・末木新・川崎舞子・川崎隆・津田容子・下山晴彦 2010 社会と臨床心理学—研究会活動から見えるその諸相—東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 88-94

〈分担執筆〉

下山晴彦 2009 心理社会的介入(認知行動療法, 家族療法, 治療共同体など)の説明 in 林直樹(編) 精神科診療における説明とその根拠 中山書店 161-174

下山晴彦 2009 精神療法の適用と留意点: 認知行動療法 in 齊藤万比古(編) 子どもの心の診療入門 中山書店 240-247

下山晴彦 2009 精神医学を学ぶ 金生由起子・下山晴彦(編) 2009 精神医学を知る—メンタルヘルス専門職のために 東京大学出版会 7-24

下山晴彦 2009 臨床心理学の全体構造 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 2-5.

下山晴彦 カウンセリング/心理療法/臨床心理学 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 6-9.

下山晴彦 2009 臨床心理学の実践活動 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 10-13.

下山晴彦 2009 臨床心理学の研究活動 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 14-15.

下山晴彦 2009 臨床心理学の専門活動 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 16-17.

下山晴彦 2009 世界の臨床心理学の歴史 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミ

ネルヴァ書房 pp. 18-21.

下山晴彦 2009 日本の臨床心理学の歴史 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 22-25.

下山晴彦 2009 アセスメントとは何か 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 40-41.

下山晴彦 2009 異常心理学とは何か 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 68-71.

下山晴彦 2009 精神障害の分類 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 72-73.

下山晴彦 2009 精神障害と薬物療法 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 74-77.

下山晴彦 2009 統合視点 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 140-141

下山晴彦 2009 臨床心理学研究の課題 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 228-229.

下山晴彦 2009 量的研究 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 232-233.

下山晴彦 2009 事例研究 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 234-235.

下山晴彦 2009 社会の中での臨床心理活動 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 248-251.

下山晴彦 2009 教育と訓練 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 282-283.

下山晴彦 2009 カリキュラム 下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房 pp. 284-285.

〈報告書〉

下山晴彦 2010 援助専門職の職業倫理 東京大学法学部学習相談室報告書平成21年度版, 21-25.

田中千穂子(教授)

〈著書〉

田中千穂子(編著)「発達障碍の理解と対応—心理臨床の視点から」2009 金子書房 総ページ数

336

田中千穂子(単著)「母と子のこころの相談室—関係性を育てる心理臨床」2009 山王出版 総ページ数281 改定新判

〈雑誌論文〉

田中千穂子(2009) プレイセラピーの空洞化—関係性という視点の喪失 遊戯療法学研究 18, 1, 2009 pp. 83-85

田中千穂子 小学生の親たちにとっての子育ての楽しみ 「児童心理」2月臨時号 「子育てを楽しめる親になる—小学生の子どもをもつ親のために」2009 pp. 1-10

田中千穂子 虐待不安からみえるもの 「都市問題」特集2「お受験と貧困」東京市政調査会 2010, pp. 83-91

田中千穂子(2009) 羽野さんのケース論文を読んで, 臨床心理事例研究 京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要35 2009, pp. 76-78

田中千穂子 書評 臨床心理学10-1 2010 pp. 150-151

中釜洋子(教授)

〈著書〉

中釜洋子(単著), 『個人療法と家族療法をつなぐ—関係系志向の実践的統合』, 東京大学出版会, 2010.03, 総頁数226p.

〈雑誌論文(査読つき)〉

中釜洋子(共著), 「ケースの見方・考え方XXVII-1 マルトリートメントを受けていた男子児童と家族への支援」, (田附あえか・大塚斉・塩谷隼平・古館有希子との共著), 精神療法, 第35巻第2号, 2009.04, p. 87-96.

中釜洋子(共著), 「発達障害と家族ストレス」, (大西真美との共著), 日本家族心理学会編集, 家族心理学年報27 家族のストレス, 金子書房, 2009.05, p. 116-129

中釜洋子(共著), 「ケースの見方・考え方XXVII-2 児童養護施設で暮らす子どもとその家族の心理援助—子どもと家族の想いをつなぐために—」, (大塚斉・田附あえか・高田治との共著), 精神療法, 第35巻第3号, 2009.06, p. 377-386.

中釜洋子(共著), 「ケースの見方・考え方XXVII-3 母親との関係改善を望んだ神経性食欲不振症の一例」, (小原千郷との共著), 精神療法, 第35巻第4号, 2009.08, p. 523-532.

中釜洋子 (単著), 「保護者とう付き合うか? : 家族療法の視点から」, 子どもの心と学校臨床, 第1号, 遠見書房, 2010.08, p.23-32.

〈雑誌論文 (紀要など)〉

中釜洋子 (単著), 「ケースが終わる時」, 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 第32集, 2009.06, p.281-282

中釜洋子 (共著), 「特集: 家族のための心理援助を考える シリーズ1: 映画に登場する家族を題材としたロールプレイ実践から」, 大西真美, 土屋瑛美, 足立英彦, 須川聡子, 長利玲子, 割澤靖子ほか, 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 第32集, 2009.06, p.201-224

〈分担執筆〉

中釜洋子 (単著), 「家族の視点からとらえた主体の危機と臨床」, 秦野悦子・須田治・本郷一夫編著, 『シリーズ子どもへの発達支援のエッセンス 第2巻 須田治編 情動的な人間関係の問題への対応』, 金子書房, 2009.08, p.178-204

中釜洋子 (単著), 「親子関係の隠れた病理」, 柏木恵子編著, 『よくわかる家族心理学』, ミネルヴァ書房, 2010.02, p.186-187/217

中釜洋子 (単著), 「第Ⅱ部第6章 子どもの問題行動と教育相談」, 放送大学, 『教員免許更新講習』, 2009.07, p.17-18

中釜洋子 (単著), 「いまどきの家族・いまどきの子育てをめぐって」, 月刊母子保健, 2010.01, 第609号, p.8-9

中釜洋子 (単著), 臨床心理学キーワード 第52回 「家族療法・関係療法・システムティック療法/中立性・多方向への肩入れ/ジェノグラム」, 臨床心理学, 第9巻第9号, 2009.11, p.828-830

中釜洋子 (単著), 「今月の本棚『家族の心はいま一研究と臨床の対話から』 柏木恵子・平木典子著」, 児童心理904, 金子書房, 2009.11, p.141

中釜洋子 (単著), 「書評 青木紀久代著『親のメンタルヘルス』」, 精神療法, 第35巻第6号, 2009.12, p.107

中釜洋子 (単著), 「家族発達と情緒的自立: 子育ての視点から」, 畠中宗一編, 『現代のエスプリ508 関係性のなかでの自立』, ぎょうせい, 2009.11, p.101-111

中釜洋子 (単著), 「子ども同士の関わりを見守る親を支える」, 柳澤正義編, 『母子保健ハンドブック 2009』, 財団法人母子衛生研究会, 2009.07, p.86

-87

〈DVD教材〉

中釜洋子 (単著), 放送大学TV教員免許更新講習 教育の最新事情 第6回 「子どもの問題行動と教育相談」, 2009.7, DVD教材

〈シンポジウムなど〉

中釜洋子 (シンポジウム), 大会準備委員会企画シンポジウム 「うつの理解とアプローチをめぐって」, 野末武義・伊藤絵美・岩壁茂・中村伸一・中釜洋子, 日本心理臨床学会第28回大会 2009.09, 東京国際フォーラム (東京)

中釜洋子 (ワークショップ), ワークショップ 「質的データをどう扱うか?」, 高橋恵子・柏木恵子・安藤寿康・中釜洋子・村井潤一郎・子安増生・森敏昭, 日本心理学会第73回大会, 2009.08, 立命館大学 (大阪)

中釜洋子 (シンポジウム), 大会準備委員会企画シンポジウム 「家族関係の未来: 「個としての快適さ志向」と「関係性を生きること」のジレンマ」, 畠中宗一, 川崎末美, 中釜洋子, 日本家族心理学会第26回大会, 2009.08, 大阪市立大学 (大阪)

中釜洋子 (ワークショップ), 大会ワークショップ 「カップルカウンセリング事始め」, 中釜洋子, 石井千賀子, 野末武義, 日本家族研究・家族療法学会第26回大会, 2009.06. 広島市町づくり市民交流プラザ (広島)

能 智 正 博 (准教授)

〈著書〉

社団法人日本心理学会 (分担執筆・編集) 社団法人日本心理学会倫理規程 (全44ページ), 2009年8月.

〈雑誌論文〉

能智正博 質的研究をどう読むか. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 102-108. 2010年3月.

〈その他の業績〉

能智正博 (エッセイ) 臨床実践の研究法の教育—英国の試みについて. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 33, 228-229. 2010年3月.

能智正博・原田満里子 (学会発表) 自己エスノグラフィの実践における語りの揺らぎと気づきのプロセス—「メタ語り」から見た語り直しの機序に着目して. 日本発達心理学会第21回大会, 神戸,

- 2010年3月
能智正博（講演）質的分析の教育—異文化のテキストを読む姿勢を教える。多文化関係学会関東地区研究会 東京、2010年3月。
- 能智正博（講演）行為としての聴き取り。南多摩リハビリテーションスタッフ合同会議 シンポジウム 東京、2010年3月。
- 能智正博（講演）質的研究の質を高めるには—PAC分析におけるナラティブの扱いを考える指針として—。第5回PAC分析と日本語教育研究会 横浜、2010年1月。
- 能智正博（講習会）質的研究法2。日本臨床心理士会臨床心理センター講座、東京、2009年12月。
- 能智正博（講演）臨床に活かす質的研究の方法論—当事者の〈語り〉と出会うために—。第2回地域リハビリテーション講習会、東京、2009年11月。
- 横山登志子・山崎浩司・小倉啓子・三毛美予子・能智正博（シンポジウム、指定討論）修正版グラウンデッド・セオリー（M-GTA）における「研究する人間」とは何か。日本質的心理学会第6回大会、札幌、2009年9月。
- 山崎史郎・高岸幸弘・能智正博・茂呂雄二・守屋慶子・土田宣明（シンポジウム、話題提供）文化、発達とカウンセリング—基礎と臨床の対話。日本心理学会第73回大会、京都、2009年8月。
- 繁樹算男・能智正博・仁平義明・横田正夫・石垣琢磨・岩崎庸男（シンポジウム、司会）心理学と倫理（2）—倫理規程の活用について考える— 日本心理学会第73回大会 京都、2009年8月。
- 能智正博（講習会）質的研究法。日本臨床心理士会臨床心理センター講座、東京、2009年6月。
- 能智正博（司会、コメント）国際シンポジウム『自閉症者の語る自閉症の世界』、東京、2009年5月。
- 能智正博（エッセイ）[タイトルなし]。東大教師が新入生にすすめる本2、文藝春秋（編）、132-134。文春新書。2009年4月

高橋美保（講師）

〈著書〉

- 高橋美保（単著）、『中高年の失業体験と心理的援助—失業者を社会につなぐために—』、ミネルヴァ書房、2010、総頁数321。

〈雑誌論文〉

- 高橋美保（共著）、「失業者へのスティグマに関する研究の概観と今後の展望—心理的援助に向け

て」、（石津和子氏、森田慎一郎氏との共著）『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』第33巻、2010、pp.210-217。

高橋美保（単著）「産業心理臨床のヒント Vol. 1.1 失業者支援」、『臨床心理学』第9巻第6号、2009、pp.834-835。

高橋美保（単著）「書評『精神医学の知と技 精神症状の把握と理解』原田憲一著」、『臨床心理学』第9巻第3号、2010、p.447。

高橋美保（単著）「若い視点で内観の将来を語る—臨床心理学の立場から」『内観研究』第15巻第1号、2009、pp.17-21。

〈分担執筆〉

高橋美保（単著）、「Ⅲ 問題を理解する（アセスメント）（5）ライフサイクルと心理的問題 中年期の心理的問題」、下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』、ミネルヴァ書房、2009、pp.108-111。

高橋美保（単著）、「Ⅸ 問題に介入する（1）理論モデル 内観療法」、下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』、ミネルヴァ書房、pp.174-175。

高橋美保（単著）、「Ⅸ 問題に介入する（1）理論モデル 森田療法」、下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』、ミネルヴァ書房、pp.176-177。

高橋美保（単著）、「Ⅹ 問題に介入する（2）介入技法（個人） フォーカシング」、下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』、ミネルヴァ書房、pp.184-185。

〈その他の業績〉

高橋美保（エッセイ）、「社会人としての臨床心理士とは」、『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』第33巻、2010、pp.230-232。

高橋美保（単著）、「高田論文へのコメント」、『創価大学心理教育相談室年報』第8号、2010、p.28。

高橋美保（単著）、「失業者への援助をめぐる—心理的援助の視点から」、『季刊労働行政研究』第19巻、2009、pp.1-2。

身体教育学コース

佐々木 司（教授）

〈雑誌論文〉

- 井野英江、飯田由美、佐々木司。（2009）広汎性発達障害（PDD）の大学生の学生生活に対する支援

- 方法の検討. 臨床精神医学 38 : 1779-88.
- Kawamura Y, Takahashi Y, Akiyama Y, Sasaki T, Kako M. (2009) Reliability and validity of the Japanese version of the Child Abuse Potential Inventory (CAPI) abuse scale. *Asia Pac Psychiatry* 1 : 138-42.
- Otowa T*, Shimada T**, Kawamura Y, Liu X, Inoue K, Sugaya N, Minato T, Nakagami R, Tochigi M, Umekage T, Kasai K, Kato N, Tanii H, Okazaki Y, Kaiya H, Sasaki T*. (**equal contribution) (2009) No association between the Val 66 Met polymorphism of the brain-derived neurotrophic factor (BDNF) gene and panic disorder in Japanese population. *J Hum Genet* 54 : 437-9.
- Koga M, Ishiguro H, Yazaki S, Horiuchi Y, Arai M, Niizato K, Iritani S, Itokawa M, Inada T, Iwata N, Ozaki N, Ujike H, Kunugi H, Sasaki T, Takahashi M, Watanabe Y, Someya T, Kakita A, Takahashi H, Nawa H, Muchardt C, Yaniv M, Arinami T. (2009) Involvement of SMARCA2/BRM in the SWI/SNF chromatin-remodeling complex in schizophrenia. *Hum Mol Genet* 18 : 2483-94.
- Takizawa R, Tochigi M, Kawakubo Y, Marumo K, Sasaki T, Fukuda M, Kasai K (2009) Association between Catechol-O-Methyltransferase Val 108/158 Met genotype and prefrontal hemodynamic response in Schizophrenia. *PLoS ONE*. 4 : e 5495.
- Shimada H, Numazawa K, Sasaki T, Kato N, Ebisawa T. (2009) Introduction of tau mutation into cultured Rat 1-R 12 cells by gene targeting using recombinant adeno-associated virus vector. *Cell Mol Neurobiol* 29 : 699-705.
- Otsuka S, Sakamoto Y, Siomi H, Itakura M, Yamamoto K, Matsumoto H, Sasaki T, Kato N, Nanba E (2010) Fragile X carrier screening and FMR 1 allele distribution in the Japanese population. *Brain Dev* 32 : 110-4.
- Marui T, Funatogawa I, Koishi S, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Nanba E, Nishida H, Sugiyama T, Kasai K, Watanabe K, Kano Y, Sasaki T, Kato N (2009) Association of the neuronal cell adhesion molecule (NRCAM) gene variants with autism. *Int J Neuropsychopharmacol* 12 : 1-10.
- Otowa T, Yoshida E, Sugaya N, Yasuda S, Nishimura Y, Inoue K, Tochigi T, Umekage T, Miyagawa T, Nishida N, Tokunaga K, Tanii H, Sasaki T*, Kaiya H, Okazaki Y. (2009) Genome-wide association study of panic disorder in the Japanese population. *J Hum Genet* 54 : 122-6.
- Takizawa R, Hashimoto K, Tochigi M, Kawakubo Y, Marumo K, Sasaki T, Fukuda M, Kasai K. (2009) Association between sigma-1 receptor gene polymorphism and prefrontal hemodynamic response induced by cognitive activation in schizophrenia. *Prog Neuro-Psychopharmacol Biol Psychiatr* 33 : 491-8.
- Nishida A, Sasaki T*, Harada S, Fukuda M, Masui K, Nishimura Y, Ikebuchi E, Okazaki Y (2009) Risk of developing schizophrenia among Japanese high-risk offspring of an affected parent : outcome of a twenty-four-year follow-up. *Psychiatr Clin Neurosci* 63 : 88-93.
- 〈その他の業績〉
- 音羽健司, 佐々木司 (2009) 不安障害とゲノミクス. 臨床精神医学 38 : 1021-1029.
- 佐々木司 (2009) 遺伝学. 金生由紀子, 下山晴彦編 : 精神医学を知る (メンタルヘルス専門職のために). pp. 271-293, 東京大学出版会.
- 音羽健司, 佐々木司 (2009) パニック障害の全ゲノム関連研究. 医学のあゆみ 229, 191-194.
- 栃木衛, 佐々木司 (2009) 遺伝子解析. 松本英夫, 飯田順三編 : 子どもの精神病的障害. I. 統合失調症. pp. 94-101, 中山書店.
- 〈招待講演〉
- 佐々木司 自閉症原因遺伝子の探索研究の現状と今後の課題. 第51回日本小児神経学会 教育講演 3. 米子市, 2009年5月
- 佐々木司 自閉症原因遺伝子探索の現状と今後の課題. 順天堂大学神経生理学セミナー. 東京, 2009年6月
- 佐々木司 ヒトDNAを用いた自閉症ゲノム研究. 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所公開シンポジウム “自閉症の基礎と臨床”. 春日井市. 2009年12月18日
- 佐々木司 難関大学・大学院に在籍する発達障害の学生—その実態と支援—. 横浜市総合リハビリテーションセンター診療所 診療研究会. 横浜, 2010年1月10日
- 佐々木司 自閉症遺伝子に関する研究. 2009年度発達障害医学セミナー. 大阪, 2010年1月30日

多賀 巖太郎 (教授)

〈雑誌論文〉

- H. Watanabe, F. Homae, G. Taga : General to specific development of functional activation in the cortexes of 2- to 3-month-old infants. *NeuroImage* 50, 1536-1544, 2010
- T. Ikegami, M. Hirashima, G. Taga, D. Nozaki : Asymmetric transfer of visuomotor learning between discrete and rhythmic reaching movements. *Journal of Neuroscience* 30, 4515-4521, 2010

〈著書〉

- 多賀巖太郎：身体運動の発達と非線形力学「よくわかる認知科学」(乾敏郎, 吉川左紀子, 川口潤編) ミネルヴァ書房, 30-31, 2010
- 多賀巖太郎：第13章「イラストレクチャー認知神経科学」(村上郁也 編) オーム社, 216-227, 2010

〈その他の業績〉

- G. Taga : Functional brain development in early infancy. Workshop : Development of the social brain, Tokyo, Jan. 23, 2010 (invited)
- 多賀巖太郎：脳と身体の発達, 身体性情報学研究会, 東京, 2009.5.23
- 多賀巖太郎：乳児期における光脳機能イメージング, 第11回光脳機能イメージング研究会, 東京, 2009.7.18 (招待)
- 多賀巖太郎：乳児行動発達の基礎研究に関する現状と課題, 第8回行動発達研究会, 東京, 2009.7.25
- 多賀巖太郎：馴化脱馴化に関連する乳児期初期の大脳皮質の活動, 日本心理学会ワークショップ, 京都, 2009.8.26 (招待)
- 多賀巖太郎：脳科学と学習・発達, 第1回応用脳科学シンポジウム, 東京, 2009.9.12 (招待)
- 多賀巖太郎：赤ちゃんの謎に迫る一脳科学から, 日本心理学会公開シンポジウム, 東京, 2009.10.25 (招待)
- 多賀巖太郎：乳児期初期の脳の機能発達, 情動研究会, 富山, 2009.10.24 (招待)
- 多賀巖太郎：身体性と発達, 認知発達理論研究会, 東京, 2009.12.12 (招待)
- 多賀巖太郎：赤ちゃんの謎に迫る一脳科学から, 日本心理学会公開シンポジウム, 仙台, 2010.1.31 (招待)
- 多賀巖太郎：幼児の脳の発達から見た保育・教育の現状と将来, 第二回応用脳科学シンポジウム, 東

京, 2010.3.27 (招待)

武藤 芳照 (教授)

〈編著書〉

- 『運動器慢性疾患に対する運動療法』(黒澤尚編集), 金原出版, 2009, (分担「水中運動の特性と利点」, 「腰痛症に対する水中運動」, 「股関節疾患に対する水中運動」, 「水中運動」, 「転倒予防教室」)

〈論文〉

- 武藤芳照 (単著) 「学校における運動器検診」, 『日本臨床』, vol. 67, 351-355, 2009
- (小松泰喜と共著) 「重力が骨に与える影響」, 『理学療法』, vol. 26, 619-625, 2009
- 武藤芳照 (共著) 「学童の運動器検診」, 『小児科学』, vol. 41, 1104-1107, 2009
- Kamioka H. (共著) 「Effectiveness of Comprehensive Health Education Combining Lifestyle Education and Hot Spa Bathing for Male White-Collar Employees : A Randomized Controlled Trial with 1-Year Follow-Up」, 『J Epidemiology』, vol. 19, 219-230, 2009
- Kamada M. (共著) 「Environmental correlates of physical activity in driving and non-driving rural Japanese women」, 『Preventive Medicine』, vol. 49, 490-496, 2009
- 武藤芳照 (単著) 「転倒・骨折予防の実践ポイント」, 『東京都医師会雑誌』, vol. 63, 58-63, 2010
- Kamioka H. (共著) 「Effectiveness of Aquatic Exercise and Balneotherapy : A Summary of Systematic Reviews Based on Randomized Controlled Trials of Water Immersion Therapies」, 『J of Epidemiology』, vol. 20, 2-12, 2010
- Kamioka H. (共著) 「Fall-Prevention Self-Efficacy in Relationship to High-Density Lipoprotein Cholesterol and Physical Strength in Elderly Residents of a Japanese Rural District : Kosuge Cross-Sectional Study」, 『東京農業大学集報』, vol. 54, 283-291, 2010
- 上岡洋晴 (共著) 「温泉の効果に関するエビデンスの整理と健康づくりを中心としたレジャーへの応用」, 『身体教育医学研究』, vol. 11, 1-11, 2010

〈解説・レポート〉

- 武藤芳照 (単著) 「MY TURNING POINT」, 『アルスライティス』, vol. 7, p. 7, 2009

〈学会発表〉

〈学術講演等〉

- 「発育期のスポーツ傷害の予防—学校における運動器検診の整備・充実をめぐって—」, 第22回健康スポーツ医学講演会, 2010年3月, 鳥取県
- 「認知症高齢者の転倒予防 転倒予防が目指すもの」, 岩手県転倒予防医学研究会発足記念高齢者の転倒予防フォーラム岩手 2010, 2010年3月, 岩手県
- 「運動器と運動を大切に—児童・生徒のスポーツ障害と生活習慣病予防のための適正な運動・スポーツのあり方—」, 平成21年度学校医研修会, 2010年2月, 兵庫県
- 「転ばぬ先の杖と知恵—高齢者の転倒・骨折・寝たきりを防ぐために—」, 日本リハビリテーション医学会市民公開講座, 2010年2月, 滋賀県
- 「スポーツと健康」, 広島県体育協会 平成21年度広島県スポーツ指導者研修会, 2010年2月, 広島県
- 「児童・生徒の体力低下とスポーツ傷害の予防—運動器の10年の立場から—」, 「運動器の10年」日本委員会北海道研修会, 2010年1月, 北海道旭川
- 「児童・生徒の体力低下とスポーツ傷害の予防—運動器の10年の立場から—」, 「運動器の10年」日本委員会北海道研修会, 2010年1月, 北海道札幌
- 「健康スポーツ医学の実践と教育」, 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程設置記念講演会, 2010年1月, 長野県
- 「子どものスポーツ傷害の予防—学校での運動器検診の整備・充実に向けて—」, 沖縄県整形外科学術講演会 平成21年度日本医師会生涯教育講座, 2009年12月, 沖縄県
- 「高齢者の転倒・骨折予防の実践と教育」, 平成21年度琉球大学医学部第4回医療安全職員研修会, 2009年12月, 沖縄県
- 「水と健康」, 東京大学公開講座, 2009年11月, 東京都
- 「転ばぬ先の杖と知恵—転倒・骨折を防ぐために—」, スモンの集い, 2009年11月, 東京都
- 「学校における運動器検診の整備・充実に向けて—発育期のスポーツ傷害の予防—」, 第56回日本小児保健学会, 2009年10月, 大阪
- 「骨粗鬆症に伴う高齢者の転倒・骨折の予防の実践と教育」, 藤沢市医師会整形外科医会30周年記念講演会, 2009年10月, 神奈川県
- 「子どもの運動器と運動を大切に—スポーツ障害と

運動不足を予防するために—」, こどもの健康フォーラム, 2009年10月, 岩手県

- 「子どものスポーツ障害の予防—学校における運動器検診の整備・充実を求めて—」, 平成21年度日本医師会生涯教育講座, 2009年9月, 山梨県
- 「高校生の運動不足と運動過多に伴う健康障害, 事故の予防—学校における運動器検診の充実に向けて—」, 第53回愛知県高等学校保健研究大会, 2009年8月, 愛知県
- 「転倒・骨折予防の実践と教育」, 今治市医師会講演会, 2009年7月, 愛媛県
- 「子どもの身体の二極化へのスポーツ医学の対応—学校における運動器検診の整備・充実に向けて—」, スポーツドクター愛知県連絡協議会研修会, 2009年7月, 愛知県
- 「高齢者の転倒・骨折並びに関節疾患の予防・リハビリテーションのための運動処方」, 第10回杉並区医師会外科医会・整形外科医会合同学術講演会, 2009年6月, 東京都
- 「転倒・骨折予防の実践のポイント」, 東京都医師会生涯教育講座, 2009年6月, 東京都
- 「転倒予防の目指すもの」, 第9回転倒予防指導者養成講座, 2009年5月, 静岡県
- 「学校プール事故の防止対策について・水泳における安全なスタートの指導について」, 福島県水泳プール安全指導・管理講習会, 2009年4月, 福島県
- 「転倒予防—60歳からの旅行医学」, 第8回旅行医学会大会, 2009年4月, 東京都

山本 義春 (教授)

〈論文〉

- Yamanaka, K. and Y. Yamamoto. Single-trial EEG power and phase dynamics associated with voluntary response inhibition. *Journal of Cognitive Neuroscience* 22 : 714–727, 2010.
- Wu, M. -C., E. Watanabe, Z. R. Struzik, C. -K. Hu, and Y. Yamamoto. Phase statistics approach to human ventricular fibrillation. *Physical Review E*, 80 : 051917–1–9, 2009.
- Nakano, T., Y. Yamamoto, K. Kitajo, T. Takahashi, and S. Kitazawa. Synchronization of spontaneous eye blinks while viewing video stories. *Proceedings of the Royal Society B* 276 : 3635–3644, 2009.
- Ogata, H., K. Tokuyama, S. Nagasaka, M. Miyamoto, T.

Tsuchida, T. Kurashina, N. Sato, A. Deguchi, A. Ando, I. Kusaka, S. Ishibashi, H. Suzuki, N. Yamada, A. Nitta, K. Hamano, K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Long-range negative correlations in glucose dynamics and glucose control in healthy subjects and in patients with diabetes mellitus. *Proceedings of the IFMBE/IMIA 6th International Workshop on Biosignal Interpretation*, pp. 207–211, 2009.

Nakamura, T., M. Sone, N. Aoyagi, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Association of local statistics of locomotor activity with momentary depressive mood. *Proceedings of the IFMBE/IMIA 6th International Workshop on Biosignal Interpretation*, pp. 48–51, 2009.

〈招待講演・シンポジウム講演〉

Yamamoto, Y. Universal laws of behavioral organization in mice and humans and the breakdown in depression. *The 3rd International Symposium on Mobiligence*, Awaji, Japan (November, 2009).

Yamamoto, Y. Universality of dynamical properties of locomotor activity in mice and humans and its breakdown in depression. *EMBL Workshop on Translating Behaviour: Bridging Clinical and Animal Model Research*. Heidelberg, Germany (November, 2009).

野 崎 大 地 (准教授)

〈雑誌論文〉

Abe MO, Masani K, Nozaki D, Akai M, Nakazawa K (2010), 「Temporal correlations in center of body mass fluctuation during standing and walking.」, 『Human Movement Science』 29巻, pp. 556–566.

Aihara T, Kitajo K, Nozaki D, Yamamoto Y (2010), 「How does stochastic resonance work within the human brain? – psychophysics of internal and external noise.」 『Chemical Physics (in press)』

Ikegami T, Hirashima M, Taga G, Nozaki D (2010), 「Asymmetric transfer of visuomotor learning between discrete and rhythmic movements.」 『Journal of Neuroscience』 30巻, pp. 4515–4521

Takeda Y, Sato M, Yamanaka K, Nozaki D, Yamamoto Y (2010), 「A Generalized method to estimate waveforms common across trials from EEGs.」 『Neuroimage』 51巻, pp. 629–641

Miyazaki M, Hirashima M, Nozaki D (2010), 「The “cutaneous rabbit” hopping out of the body.」 『Journal of Neuroscience』 30巻, pp. 1856–1860

〈学会発表〉

Masaya Hirashima, Daichi Nozaki, 「Adaptation to conflicting force fields by adopting different motor plans.」, 『Society for the Neural Control of Movement』 2009. 4. 28–5. 3, Hawaii

横井惇, 平島雅也, 野崎大地, 「両腕到達運動中の脳内過程—対側の腕運動に応じた運動学習メモリ(制御過程)の切り替わり—」(シンポジウム「脳はどのように両手の協調運動制御を実現するのか?」), 『第3回生理学研究所「Motor Control 研究会」』 2009. 5. 28–30, 岡崎

野崎大地, 「二関節筋存在下での筋活動レベルの制御」, 『第21回日本運動器リハビリテーション学会』 2009. 7. 11, 東京

平島雅也, 野崎大地, 「異なる運動計画が可能にする相反力場環境への同時適応」, 『第32回日本神経科学大会』 2009. 9. 16–18, 名古屋

Kentaro Yamanaka, Daichi Nozaki, 「Delay in the restarting of motor command just after the motor inhibition.」, 『Society for Neuroscience』 2009. 10. 17–21, Chicago

Masaya Hirashima, Daichi Nozaki, 「Simultaneous adaptation to conflicting force fields by adopting different motor plans.」, 『Society for Neuroscience』 2009. 10. 17–21, Chicago

Atsushi Yokoi, Masaya Hirashima and Daichi Nozaki, 「Similarity of various bimanual movements to unimanual movement as revealed by the motor learning transfer within the same limb」, 『Society for Neuroscience』 2009. 10. 17–21, Chicago

Tsuyoshi Ikegami, Masaya Hirashima, Daichi Nozaki, 「Intermittent visual feedback facilitates visuomotor learning of rhythmic reaching movements」, 『Society for Neuroscience』 2009. 10. 17–21, Chicago

Daichi Nozaki, 「Switching of internal models with kinematics of contralateral limb.」, 『Okazaki International mini-symposium: Neural control of eye and hand movement』 2009. 11. 16, 岡崎

野崎大地, 「柔軟な両腕協調運動を可能にする脳内メカニズム」, 『日立製作所基礎研究所研究会』 2010. 2. 9, 埼玉鳩山町

教職開発コース

佐藤 学 (教授)

<著書：単著>

- 『教師花伝書—専門家として成長するために』小学館 2009年4月 206 p.
 “교육개혁을 디자인한다” 孫于正訳 (『教育改革をデザインする』韓国版, 再出版) Lifelong Learning Books : Seoul, Korea, November 2009. 178 p.

<著書：編著>

- 佐藤学・澤野由紀子・北村友人編『変わる世界の学力マップ』明石書店 2009年4月
 佐藤学・和歌山大学教育学部附属小学校『質の高い学びを創る授業改革への挑戦—新学習指導要領を超えて』(東洋館出版社 2009年10月)

<著書：分担執筆>

- 「北米＝多様性のあるグローバリゼーション」「日本＝学ぶ意欲の時代から学ぶ意味の時代へ—問われる「質と平等」の同時追求」(佐藤学・澤野由紀子・北村友人編『揺れる世界の学力マップ』明石書店 2009年4月, pp. 190-199. pp. 316-329.)
 「言語リテラシー教育の政治学」(マイケル・アップル, ジェフ・ウィッティ, 長尾彰夫編『批判的教育学と公教育の再生』明石書店 2009年5月 pp. 39-55.)
 「学力問題の構図と基礎学力の概念」(東京大学学校教育高度化センター編『基礎学力を問う—21世紀日本の教育への展望』東京大学出版会 2009年6月 pp. 1-32.)
 「言語リテラシー教育の政策とイデオロギー」(大津由紀雄編『危機に立つ日本の英語教育』慶應大学出版会 2009年7月 pp. 240-277.)
 「授業研究の現在—改革の動向」(日本教育方法学会編『日本の授業研究—授業研究の歴史と教師教育』学文社 2009年9月 pp. 104-114.)
 「新学習指導要領を超える授業実践の創造」(佐藤学・和歌山大学教育学部附属小学校『質の高い学びを創る授業改革への挑戦』東洋館出版社 2009年10月 pp. 11-18.)

<雑誌論文>

- 「教育の現在, そして未来に向けて」(『現代思想』青土社 2009年4月 pp. 72-81.)
 「学校見聞録」(連載『総合教育技術』小学館 2009年4月—2010年3月)

<事典>

- 「学び合う共同体」(pp. 110-111.) 「学びの身体技

法」(pp. 112-113.) 「学力の再定義」(pp. 142-143.) (『最新教育キーワード』時事通信社 2009年)

<その他>

- 「教室の日常の中の限界と希望」(映画パンフ「パリ20区・僕たちのクラス」東京テアトル 岩波ホール 2010年2月)
 「序文」(上野正道『学校の公共性と民主主義—デューイの美的経験へ』東京大学出版会 2010年3月 pp. 1-2.)

<講演>

- 「教員養成系大学・学部・大学院のあり方」(日本教育大学協会60周年記念講演 KKR ホテル東京 2009年6月29日)

<対談・座談・インタビュー>

- 「アール・ブリュット (生の芸術) について」(佐藤学+田中康夫, ワタリウム美術館・アロイズ展, 2009年5月23日)
 「新自由主義への対抗軸」(姜尚中+佐藤学『クレスコ』大月書店 2009年6月号 pp. 12-21.)

<テレビ出演>

- 「クローズアップ現代・10歳の壁を乗り越えろ—考える力をどう育てるか」(NHK 総合 2009年6月18日)

教育内容開発コース

藤村 宣之 (准教授)

<著書>

【編著】

- 藤村宣之 (編著), 『発達心理学: 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか』, ミネルヴァ書房, 2009, 総頁数250.

【分担執筆】

- 藤村宣之 (単著), 「概念発達をベースとした授業: プロセスと効果」(吉田甫・E. ディコルテ (編) 『子どもの論理を活かす授業づくり: デザイン実践の教育実践心理学』北大路書房, 2009, (pp. 57-74)

<雑誌論文>

- 橘春菜・藤村宣之 (共著) 「高校生のペアでの協同解決を通じた知識統合過程—知識を相互構築する相手としての他者の役割に着目して—」『教育心理学研究』第58巻第1号, 2010, 1-11.

<学会・シンポジウム発表>

- 藤村宣之 「子どもの育ちを支える教育—発達にもと

づき、発達を促すカリキュラムのあり方—」東京大学大学院学校教育高度化センターシンポジウム「学びと育ちを保障する学校・教師」東京大学、2009年7月。

藤村宣之「子どもの既有知識を活用した教材構成：心理学の視点からの算数・数学の授業づくり」日本教育心理学会第51回総会自主シンポジウム「教材研究の教育心理学—その可能性と課題—」静岡大学、2009年9月。

藤村宣之「協同的探究学習の長期的効果と生徒の変容過程—中学校数学における一年間の実践共同研究—」日本教育心理学会第51回総会自主シンポジウム「学習研究を長期化する」静岡大学、2009年9月。

学校開発政策コース

大 桃 敏 行 (教授)

<著書>

【共編著】

藤田英典・大桃敏行編著『学校改革』（広田照幸監修『リーディングス 日本の教育と社会』第11巻）日本図書センター、2010、総頁数430頁。

【分担執筆】

大桃敏行（単著）「学校と大学のガバナンス改革について考えるにあたって」日本教育行政学会研究推進委員会編『学校と大学のガバナンス改革』教育開発研究所、2009、pp.9-22。

大桃敏行（単著）「教師の教育の自由と親・住民・行政」広田照幸編著『教育—せめぎあう「教える」「学ぶ」「育てる」—』（斎藤純一ほか編『自由への問い』第5巻）岩波書店、2009、pp.100-129。

<課題研究報告等>

大桃敏行（単著）「米国における教員養成システムの変動」日本教育制度学会『教育制度学研究』第16号、2009、pp.36-41。

背戸博史・大桃敏行（共著）「NPO 活動の推進と学校支援ネットワークの整備—千葉県事例—」宮腰英一（研究代表者）『ネットワーク型ガバナンスによる教育支援システム再編に関する日英比較研究』（科学研究費補助金研究成果報告書）2009、pp.43-54。

<学会・シンポジウム発表>

柴田聡史・大桃敏行・牛渡淳「米国における学校指導者養成のオルタナティブ・プログラムの分析—マサチューセッツ州を事例として—」日本教育学

会第68回大会、東京大学、2009年8月。

Toshiyuki Omomo, “Educational Administration Reform and Educational Administration Research in Japan,” The 1st International Symposium by the Japan Educational Administration Society and the Korean Society for the Study of Educational Administration, The 44th Annual Conference of the Japan Educational Administration Society, at Hiroshima University, October, 2009.

大桃敏行「アメリカにおける学校評価」日本学術会議心理学・教育学委員会教育の質向上検討分科会主催（東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化センター共催）シンポジウム「学校教育の質をどのように評価するか」日本学術会議、2010年3月。

勝 野 正 章 (准教授)

<著書【分担執筆】>

勝野正章（単著）、「第8章 学校選択と参加」平原春好編『概説 教育行政学』東京大学出版会 2009年、pp.153-170。

勝野正章「第2章 教員の専門職性と教員評価」河上亮一・高見茂・出口英樹編『教員免許更新講習テキスト』昭和堂、2009年8月、pp.7-12。

勝野正章（単著）、「第18章 現代における教師の仕事」田中孝彦・藤田和也・教育科学研究会編『現実と向き合う教育学 教師という仕事を考える25章』大月書店 2010年、pp.180-188。

<雑誌論文>

藤田博・高野（葛西）耕介・勝野正章「東京都の教員は主任教諭制度をどう受けとめたか—アンケート結果の分析を中心に」東京大学大学院教育学研究科 教育行政学論叢 第29号 2010年3月、pp.97-120。

勝野正章「学校における評価と競争—事実と科学的検証に基づく議論を」全国公立学校教頭会編集・発行『学校運営』、2009年6月号、pp.20-23。

勝野正章「求められている二つの改革 教師の地位向上と教師教育・研修の再構築」『教育と医学』No.674、2009年8月、pp.13-20。

勝野正章「何のための教員免許更新制？」日本子どもを守る会【編】『子ども白書2009 子ども破壊か 子どものしあわせ平等か 子どもの権利条約採択20周年・批准15周年のいま』2009年8月、pp.164-166

勝野正章「教師の協働と同僚性—教員評価の機能に触れて」『人間と教育』No. 63, 2009年9月, pp. 28-35.

〈その他の業績〉

Katsuno, M. (学会発表) Teacher evaluation in Japanese schools : an examination from a micro-political or relational standpoint, British Educational Research Association Conference 2009, 2nd to 5th September, the University of Manchester.

大学発教育支援コンソーシアム室

三宅 なほみ (教授)

〈著書〉

三宅なほみ, 「協調的な学び」, 『「学び」の認知科学事典』, 大修館書店, 2010, pp. 459-478.

〈学術論文〉

三宅なほみ (共著), 「認知科学的視点に基づく認知科学教育カリキュラム—『スキーマ』の学習を例に一」(白水始氏との共著), 『認知科学』第16巻第3号, 2009, pp. 348-376.

〈その他の業績〉

三宅なほみ, 巻頭エッセイ「話し合いながら学ぶ」, 『科学』第80巻第1号, 岩波書店, 2010